

27.

B-0034

0100

條約及國際約束締結關ル樞密院權限問題



B-0034

0101

前 言

本書ハ條約及國際約束ノ締結ニ關スル樞密院ノ權限問題ノ研究資料タルベキ諸調書ヲ集メタルモノナリ左ニ各資料ニ付簡單ニ説明ヲ加フベシ

(一) 樞密院官制及事務規程

明治二十一年四月樞密院官制ノ制定セラレテヨリ今日迄同官制ニ對シ加ヘラレタル改正ニ關スル勅令ヲ掲ゲタリ其ノ内條約及國際約束ノ締結ニ關係セルハ現行樞密院官制第六條四號、明治二十一年勅令第二十二號第六條四號後段及明治二十三年勅令第二百十六號第六條四號ナリ

(二) 條約及國際約束ノ締結ニ關スル樞密院ノ權限ニ關スル件

外 務 省

(赤 林 紙) 4

(赤 林 紙) 4

本調書ハ大正十一年末日支郵便關係協定ニ關シテ樞密院及政府間ニ問題アリタル後外務省ニ於テ條約及國際約束ノ樞密院附議ノ範圍ニ關スル法規ヲ明確ナラシムルノ必要ヲ認メ從來ノ慣例竝ニ各國ノ法制ヲモ調査シテ作成セラレタルモノニシテ解決方法トシテ第一案及第二案ノ二ヲ掲ゲタリ

第一案ハ樞密院官制ニ依ル諮詢ノ範圍ヲ批准條項ヲ含ム條約又ハ國際約束ニ限定セントスルモノニシテ第二案ハ條約及國際約束ハ一般ニ之ヲ樞密院ニ諮詢スベシトノ原則ハ之ヲ從來通りトシ唯批准條項ヲ有セザル約束ノ内或種類ノモノニ付諮詢ヲ仰グノ要ナキコトニセントセルモノナリ

樞密院官制第六條第四號ハ樞密院ニ諮詢スベキ條約及約束ノ範圍

外 務 省

B-0034

ニ付何等ノ制限ヲ設ケザルヲ以テ此ノ點ニ關スル樞密院ノ權限ハ無制限ニ非ズトノ議論ハ法理上ノ根據乏シク僅ニ樞密院ノ性質、國際事務ノ簡捷、外國ノ制度トノ比較等政治的見地ヨリ辯護セラ
ルルニ過ギズ從テ第一案ノ如ク樞密院ノ權限ヲ積極的ニ限定スルハ殆下實行不可能ト云フベク第二案ニ依リ「斯ク斯クノ種類ノ國際約束ニ付テハ樞密院ニ諮詢スルノ要ナシ」トノ了解ヲ樞密院及政府間ニ成立セシムルコトニ依リ消極的ニ樞密院ノ權限ヲ制限スル方實現ノ可能性アリト云ハザルベカラズ

(三) 國際約束ニ關スル樞密院ノ權限ノ沿革的考察

國際約束ニ關スル樞密院ノ權限カ漸次擴大シ來リシコトヲ簡明ニ記述セルモノナリ第二節樞府へ附議スベキ國際約束ノ範圍ハ殊ニ

(本 抄 紙) イ

外 務 省

参考ノ價值アリ

(四) 批准ヲ要セザル國際約束ノ樞府附議ト公布ノ形式ニ關スル件

第三節樞密院ニ諮詢スベキ國際約束ノ範圍ハ條約及國際約束ノ締結ニ關スル樞密院ノ權限ニ關係アリ

(五) 賠償問題倫敦條約ニ關スル件

(六) 新大藏大臣協定ニ關スル件

右兩調書ハ御批准アリタル條約ノ委任條項ノ範圍内ニ於テ締結セラレタル國際約束ハ樞密院諮詢ノ要ナシトノ慣例ニ關スルモノナリ

(七) 樞密院ニ御諮詢ナカリシ國際約束ニシテ法律ニ根據ヲ有スルモノノ先例

(本 抄 紙) イ

外 務 省

B-0034

(八) 船舶積量測度證書互認取極ニ就テ

本調書ハ從來樞密院ニ諮詢セラレザリシ船舶積量測度證書互認取極ガ樞密院ニ諮詢スルヲ要セズトノ積極的理由ナキヲ明ニシタルモノナリ

(九) 我國ニ於ケル條約ノ種類及其ノ締結ノ形式ニ關スル件

第一節條約ノ締結ニ關スル帝國ノ法規第四節餘論ハ條約及國際約束ノ締結ニ關スル樞密院ノ權限ニ關係アリ

(十) 樞密顧問ニツキテ

樞密院ノ諮詢事項ニ關スル規定ノ解釋^及顧問官ノ地位ニ關スル清水澄博士ノ論文(國學會雜誌昭和四年五月號所載)ナリ同博士ハ樞密院官制第六條第四號ニ論及セルモ此ノ點ニ關スル樞密院ノ權

(赤林氏)

外務省

限問題ニ付テハ何等具體的ノ意見ヲ發表シ居ラズ

(赤林氏)

外務省

B-0034

●樞密院官制及事務規程(現行)

明治二十一年四月三十日
勅令第二十二號

改正 明治二三年第二一六號、二六年第一二〇號、三
六年第一一號^七、四二年第一八四號
大正二年第一三七號、七年第三五五號

朕元勳及練達ノ人ヲ撰マ國務ヲ諮詢シ其啓沃ノ力ニ倚ルノ必要ヲ察
シ樞密院ヲ設ケ朕カ至高顧問ノ府トナサントス茲ニ其官制及事務規
程ヲ裁可シ之ヲ公布セシム(總理大
臣副署)
樞密院官制

第一章 組織

第一條 樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス

外務省

(赤 紙) 4

第二條 樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十四人書記官長一人
及書記官ヲ以テ組織ス

書記官ハ專任三人トス

第三條 樞密院ノ議長副議長顧問官ハ親任書記官長ハ勅任書記官ハ
奏任トス

第四條 何人タリトモ年齢四十歳ニ達シタルモノニ非サレハ議長副
議長及顧問官ニ任スルコトヲ得ス

第五條 樞密院ニ議長秘書官ヲ置ク專任一人奏任トス

第二章 職掌

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付諮詢ヲ待チ會議ヲ開キ意見ヲ上奏ス
一 皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル事項

外務省

4.3

4.3

B-0034

一 憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ニ關スル草案及疑義
 二 憲法第十四條戒嚴ノ宣告同第八條及第七十條ノ勅令及其他罰則ノ規定アル勅令
 三 列國交渉ノ條約及約束
 四 樞密院ノ官制及事務規程ノ改正ニ關スル事項
 五 前諸項ニ掲クルモノノ外臨時ニ諮詢セラレタル事項
 第七條 削除
 第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナシ
 第三章 會議及事務
 第九條 樞密院ノ會議ハ顧問官十名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ

外務省

(赤 標 紙) 4

開クコトヲ得ス
 第十條 樞密院ノ會議ハ議長之ニ首席シ議長事故アルトキハ副議長之ニ首席ス議長副議長共ニ事故アルトキハ顧問官其席次ニ依リ首席スヘシ
 第十一條 各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ノ權ヲ有ス又各大臣ハ委員ヲ差シテ會議ニ出席シ演述及説明ヲ爲サシムルコトヲ得但表決ノ數ニ加ラス
 第十二條 樞密院ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス但可否平等ノ場合ニ於テハ會議首席ノ決スル所ニ依ル
 第十三條 議長ハ樞密院ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ樞密院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス

外務省

B-0034

副議長ハ議長ノ職務ヲ輔佐ス

第十四條 書記官長ハ議長ノ監督ヲ受ケ樞密院ノ常務ヲ管理シ一切ノ公文ニ副署シ會議ニ付スヘキ事項ヲ審査シテ報告書ヲ調製シ會議ニ列シ辨明ノ任ニ當ル但表決ノ數ニ加ラス

書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及書記官長ノ職務ヲ輔佐シ書記官長事故アルトキハ書記官之ヲ代理ス

前項ノ筆記ハ出席員ノ姓名會議ノ事件質問答辨及議決ノ要旨ヲ記載スルモノトス

第十四條ノ二 議長秘書官ハ議長官房ノ事務ヲ掌ル

第十五條 特別ノ場合ヲ除クノ外豫メ審査報告書ヲ調製シ其會議ニ必要ナル書類ト共ニ之ヲ各員ニ配達シタル後ニ非サレハ會議ヲ開

(赤 紙) イ

外 務 省

4.3

クコトヲ得ス

議事日程及報告ハ豫メ各大臣ニ通報スヘシ

樞密院事務規程

第一條 樞密院ハ勅命ニ由リ會議ニ下付セラレタル事項ニ意見ヲ述

第二條 樞密院ハ帝國議會若クハ其一院又ハ官署又ハ臣民ヨリ請願上書其他通信ヲ受領スルコトヲ得ス

第三條 樞密院ハ内閣及各省大臣トノミ公務上ノ交渉ヲ有シ其他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉ヲ有スルコトヲ得ス

第四條 議長ハ樞密院ニ到着スルノ事項ハ書記官長ニ下付シテ之ヲ

(赤 紙) イ

外 務 省

4.3

B-0034

審査セシメ及會議ニ付スヘキ事項ノ報告ヲ調製セシム
議長ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ親ラ報告ノ任ニ當リ又ハ顧問
官一人若クハ數人ニ之ヲ任スルコトヲ得ヘシ

第五條 審査報告書ハ報告員ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ
臨時緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ
於テハ其要領ヲ簡短ニ第八條ニ載スル件名簿ニ記入スヘシ

第六條 議長ハ審査報告書ヲ整頓スヘキ期日ヲ限定スルコトヲ得報
告ハ成ルヘク速ニ之ヲ調製シテ遅延スルコトヲ許サス
内閣ハ至急ヲ要スル事件ニ付其由ヲ通知シ及其會議ノ期日ヲ限定
スルコトヲ得

第七條 審査報告書ハ附屬文書ト共ニ其會議ヲ開クノ日ヨリ少クモ

三日以前ニ之ヲ各員ニ配達スヘシ

第八條 件名簿ハ會議ノ期日ノ順序ニ從ヒ之ヲ記入スヘシ件名簿ニ
登載スヘキ事項ハ第一事件ノ性質第二會議ノ前文書配達ノ日時第
三其會議ノ期日等トス

會議ニ付スヘキ各件ニ就テハ前項ニ同シキ議事日程ヲ調製シ其會
議ヲ開クノ日ヨリ三日以前ニ各員ニ通報スヘシ此通報ハ會議ノ招
狀ヲ兼ヌルモノトス

第九條 樞密院ノ會議ノ日時ハ議長之ヲ定ム但各大臣ハ其日時ノ變
更ヲ求ムルコトヲ得

第十條 樞密院ノ會議ハ左ノ規程ニ循由シ議長若クハ副議長之ヲ整
理スヘシ

B-0034

議長ハ書記官長ヲシテ其事件ヲ辯明セシメ次テ各員ヲシテ自由ニ
討論セシム何人タリト雖モ議長ノ許可ヲ受クルニ非レハ發言スル
コトヲ得ス議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ屬スルモノトス討論
既ニ盡ルノ後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ表決ヲ爲サシム
議決ノ結果ハ議長之ヲ言明スヘシ

第十一條 議事日程ニ掲載シタル事件ノ會議其當日ニ結了セザルト
キハ之ヲ他日ニ延會スルコトヲ得此場合ニ於テハ更ニ常例ノ定式
ヲ踐行スルコトヲ要セス

第十二條 樞密院ノ會議ノ意見ハ書記官長又ハ書記官表決ノ結果ニ
依リ之ヲ起草シ議長ノ檢閲ヲ請フヘシ此意見ニハ理由ヲ附シ重要
ノ事件ニ就テハ討論ノ要領書ヲ附屬スヘシ

(赤
棒
紙)
イ

外
務
省

4.3

反對ノ議論ヲ主持シタル出席員ハ其表決ト其理由トヲ議事筆記理
由書又ハ要領書ニ記入セラレンコトヲ求ムルコトヲ得

第十三條 前條ノ意見ハ議長ヨリ天皇ニ上奏シ同時ニ内閣總理大臣
ニ通報スヘシ

第十四條 樞密院ノ會議ノ議事筆記ハ議長及書記官長又ハ出席書記
官之ニ署名シ其正確ヲ表明スヘシ

(赤
棒
紙)
イ

外
務
省

4.3

B-0034

朕元勳反謀違ノ人ヲ撰ミ國務ヲ諮詢シ其啓沃ノ力ニ倚ルノ必更ヲ察
シ樞密院ヲ設ケ朕カ至高顧問ノ府トナサントス茲ニ其官制及事務規
程ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年四月二十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第二十二號

樞密院官制

第一章 組織

第一條 樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス
第二條 樞密院ハ第一議長一人第二副議長一人第三顧問官十二人以

外務省

(本條紙)

上第四書記官長一人及書記官數人ヲ以テ組織ス

第三條 樞密院ノ議長副議長顧問官ハ親任書記官長ハ勅任書記官ハ
奏任トス

第四條 何人タリトモ年齢四十歳ニ達シタルモノニ非サレハ議長副
議長及顧問官ニ任スルコトヲ得ス

第五條 議長ハ書記官ノ内ヲ以テ秘書官ヲ兼ネシムルコトヲ得

第二章 職掌

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付會議ヲ開キ意見ヲ上奏シ勅裁ヲ請フ
ヘシ

一 憲法及憲法ニ附屬スル法律ノ解釋ニ關シ及豫算其他會計上ノ
疑義ニ關スル爭議

外務省

B-0034

0180

二 憲法ノ改正又ハ憲法ニ附屬スル法律ノ改正ニ關スル草案
 三 重要ナル勅令
 四 新法ノ草案又ハ現行法律ノ廢止改正ニ關スル草案列國交渉ノ
 條約及行政組織ノ計畫
 五 前諸項ニ屬クルモノノ外行政又ハ司法上重要ノ事項ニ付特ニ
 勅命ヲ以テ諮詢セラレタルトキ又ハ法律命令ニ付テ特ニ樞密
 院ノ諮詢ヲ經ルヲ要スルトキ
 第七條 前條第三項ニ掲ケタル勅令ニハ樞密院ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ
 記載スヘシ
 第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖
 モ施政ニ干與スルコトナシ

外務省

第三章 會議及事務
 第九條 樞密院ノ會議ハ顧問官十名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ
 開クコトヲ得ス
 第十條 樞密院ノ會議ハ議長之ニ首席シ議長事故アルトキハ副議長
 之ニ首席ス議長副議長共ニ事故アルトキハ顧問官其席次ニ依
 リ首席スヘシ
 第十一條 各大臣ハ其職權上ヨリ樞密院ニ於テ顧問官タルノ地位ヲ
 有シ議席ニ列シ其議決ノ權ヲ有ス又各大臣ハ委員ヲ差シテ會議
 ニ出席シ其議決及説明ヲ爲サシムルコトヲ得但表決ノ數ニ加ラ
 ス
 第十二條 樞密院ノ議事ハ多數ニ決リ之ヲ決ス但可否平等ノ場合ニ

外務省

B-0034

於テハ會議首席ノ決スル所ニ依ル

第十三條 議長ハ國務院ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ國務院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス

副議長ハ議長ノ職務ヲ補佐ス

第十四條 書記官長ハ議長ノ命ヲ受ケ國務院ノ事務ヲ管理シ一切ノ公文ニ副署シ會議ニ付スヘキ事項ヲ審査シテ報告書ヲ編製シ會議ニ列シ辨明ノ任ニ當ル但表決ノ權ニ加ラス

書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及書記官長ノ職務ヲ補佐シ書記官長事故アルトキハ書記官之ヲ代理ス

前項ノ筆記ハ出席員ノ姓名會議ノ事務質問答辨及議決ノ要旨ヲ記載スルモノトス

外務省

第十五條 特別ノ場合ヲ除クノ外總メ衆議院報告書ヲ編製シ其會議ニ必要ナル書類ト共ニ之ヲ各員ニ配送シタル後ニ非サルハ會議ヲ開クコトヲ得ス

議事日程及報告ハ豫メ各大臣ニ通報スヘシ

國務院事務規程

第一條 國務院ハ勅命ニ由リ會議ニ下付セラレタル事項ニ同意見ヲ述フ

第二條 國務院ハ帝國議會若クハ其一院又ハ臣民ヨリ請願上書其他通函ヲ受領スルコトヲ得ス

第三條 國務院ハ内閣及各省大臣トノミ公使上ノ交渉ヲ行シ其他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉

外務省

B-0034

0182

ヲ行スルコトヲ得ス

第四條

議長ハ最高院ニ到達スルノ事項ハ書記官長ニ下付シテ之ヲ
審査セシメ及會議ニ付スヘキ事項ノ報告ヲ調製セシム

議長ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テ親ヲ報告ノ任ニ當リ又ハ
顧問官一人若クハ数人ニ之ヲ任スルコトヲ得ヘシ

第五條

審査報告書ハ報告員ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ

臨時緊急ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ報告ヲ爲スコトヲ得此場
合ニ於テハ其要領ヲ簡短ニ第八條ニ載スル件名簿ニ記入スヘ
シ

第六條

議長ハ審査報告書ヲ整理スヘキ期日ヲ限定スルコトヲ得報
告ハ成ルヘク速ニ之ヲ調製シテ遅延スルコトヲ許サス

外務省

内閣ハ至急ヲ要スル事件ニ付其由ヲ通知シ及其會議ノ期日ヲ
限定スルコトヲ得

第七條

審査報告書ハ附屬文書ト共ニ其會議ヲ開クノ日ヨリ少クモ
三日前ニ之ヲ委員ニ提出スヘシ

第八條

存名簿ハ會議ノ期日ノ順序ニ從ヒ之ヲ記入スヘシ件名簿ニ
登錄スヘキ事項ハ第一事件ノ性質第二會議ノ前文書記達ノ日
時第三其會議ノ期日等トス

會議ニ付スヘキ事件ニ就テハ前項ニ同シキ最早日程ヲ調製シ
其會議ヲ開クノ日ヨリ三日以前ニ各員ニ通報スヘシ此通報ハ
會議ノ招状ヲ兼ヌルモノトス

第九條

最高院ノ會議ノ日時ハ議長之ヲ定ム但各大臣ハ其日時ノ變

外務省

B-0034

0183

更ラ求ムルコトヲ得

第十條 議院ノ會議ハ左ノ規程ニ循ルシ議長若クハ副議長之ヲ發
理スヘシ

書記官長又ハ書記官ハ其事件ノ性質ヲ明ニ演述シ議決ヲ取
ルヘキ要點ヲ辨明ス次テ各員ヲシテ自由ニ討論セシム何人タ
リトモ議長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ發言スルコトヲ得ス討
論既ニ盡ルノ後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ左ノ順序ニ從ヒ議決ヲ
為サシム第一出席ノ各大臣第二常任ニ從ヒ列スル所ノ顧問官
トス議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ屬スルモノトス
議決ノ結果ハ議長之ヲ聲明スヘシ

第十一條 議事日程ニ記載シタル事件ノ會議其當日ニ終了セザルト

外務省

(赤林紙)

4.3

キハ之ヲ他日ニ延會スルコトヲ得此等ノ合ニ於テハ更ニ常會ノ
定式ヲ履行スルコトヲ要セス

第十二條 議院ノ會議ノ意見ハ書記官長又ハ書記官長ノ請果ニ
スリ之ヲ起草シ議長ノ檢閱ヲ請フヘシ此意見ニハ理由ヲ附シ
重要ノ事件ニ就テハ討論ノ要點ヲ討論スヘシ

反對ノ議論ヲ主持シタル出席員ハ其議決ト其理由トヲ議事
記に出サ又ハ其討論ニ記入セラレンコトヲ求ムルコトヲ得

第十三條 議長ノ意見ハ議長ヨリ天皇ニ上奏シ同時ニ内閣總理大臣
ニ通知スヘシ

第十四條 議院ノ會議ノ議事筆記ハ議長及書記官長又ハ出席書記
官之ニ署名シ其正確ヲ表明スヘシ

外務省

4.3

B-0034

0184

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ樞密院官制及事務規程中ノ改正ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十月七日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

勅令第二百十六號

明治二十一年勅令第二十二號樞密院官制第二條第六條同事務規程第
十條第二項ヲ改正スルコト左ノ如シ

樞密院官制

第二條 樞密院ハ議長一人副議長一人顧問官二十五人書記官長一人
書記官五人ヲ以テ組織ス

外務省

(赤林紙)

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付諮詢ヲ待テ會議ヲ開キ意見ヲ上奏ス

一 皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル事項

二 憲法ノ條項又ハ憲法ニ附屬スル法律勅令ニ關スル草案及擬議

三 憲法第十四條戒嚴ノ宣告同第八條及第七十條ノ勅令及其他爾
則ノ規定アル勅令

四 列國交渉ノ條約及約束

五 樞密院ノ官制及事務規程ノ改正ニ關スル事項

六 前諸項ニ掲クルモノノ外臨時ニ諮詢セラレタル事項

樞密院事務規程

第十條第二項

議長ハ書記官長ヲシテ其事件ヲ辯明セシメ次テ各員ヲシテ自由ニ

外務省

4.3

4.3

B-0034

0185

討論セシム何人タリト雖モ議長ノ許可ヲ受クルニ非レハ發言スル
コトヲ得ス議長ノ討論ニ參與スルハ其自由ニ屬スルモノトス討論
既ニ盡ルノ後ハ議長ヨリ問題ヲ定メ表決ヲ爲サシム

(赤
紙)

外
務
省

4.3

朕樞密院官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御 名 御 璽

明治二十六年十月三十日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文

勅令第百二十號

樞密院官制第二條中書記官「五人」ヲ「三人」ニ改ム

附 則

本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

(赤
紙)

外
務
省

4.3

B-0034

0186

(赤
紙)
イ

朕樞密院官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十六年七月十三日

内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎

勅令第百十七條

樞密院官制中左ノ通改正ス

第二條中「二十五人」ヲ「二十八人」ニ改ム

外
務
省

4.3

(赤
紙)
イ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ樞密院官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十二年七月十二日

内閣總理大臣 侯爵 桂 太郎

勅令第百八十四號

樞密院官制中左ノ通改正ス

第五條 樞密院ニ議長秘書官專任一人ヲ置ク奏任トス

第七條 削除

第十四條ノ二 議長秘書官ハ議長官房ノ事務ヲ掌ル

附則

外
務
省

4.3

B-0034

0187

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(赤
林
紙)
イ

外
務
省

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ樞密院官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

御名御璽

大正二年六月十三日

内閣總理大臣 伯爵 山本權兵衛
勅令第三百三十七號

樞密院官制中左ノ通改正ス

第二條中「二十八人」ヲ「二十四人」ニ改ム

第五條 樞密院ニ議長秘書官ヲ置ク奏任トス

議長秘書官ハ書記官ヲシテ之ヲ兼ネシム

附
則

外
務
省

B-0034

0188

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ樞密顧問官ノ職ニ在ル者ハ其ノ定員ノ改正ニ拘ラ
ス在任ス

(赤
紙)

外
務
省

4.3

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ樞密院官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

御
名
御
璽

大正七年九月二十日

内閣總理大臣 伯爵寺内正毅

勅令第三百五十五號

樞密院官制中左ノ通改正ス

第二條中「書記官三人」ヲ及書記官ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ
書記官ハ專任三人トス

第五條 樞密院ニ議長秘書官ヲ置ク專任一人奏任トス

附
則

外
務
省

4.3

B-0034



本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外務省

(赤紙)

4.8

B-0034

0190

條約及國際約束ノ締結ニ關スル樞密院ノ

權限ニ關スル件

(大正十三年一月作成)

樞密院官制第六條第四號ニハ列國交渉ノ條約及約束ハ同院ニ諮詢スヘシト規定ス此ノ規定ニ依レハ樞密院ニ諮詢スヘキ條約及約束ノ範圍ニハ何等ノ制限存セサルカ如シト雖實際上下ノ規定ハ事ノ輕重如何ヲ問ハス一切ノ條約及約束ヲ樞密院ニ諮詢スヘシトノ意ニハ非スシテ國際約束中重要ナルモノノミヲ諮詢スヘシトノ意ト解スヘキモノナルハ樞密院カ重要ナル國務ヲ諮詢セラルル處ナルニ鑑ミルモ又國際事務ノ簡捷ヲ計ル見地ヨリスルモ將又國際約束ニ對スル諸外國議會ノ協贊權ノ關係ニ對比スルモ明瞭且當然ノコトナリト云ハサル可ラス然レトモ如何ニセム右官制ノ規定カ列國交渉ノ條約及約束ト

(赤 紙) 1

外 務 省

(赤 紙) 1

廣汎ニ規定シ何等制限ヲ加ヘス又條約又ハ約束ニ付何カ重要ナリヤノ一般的問題解決シ居ラサルカ爲從來政府カ締結セル國際約束ノ諮詢關係ニ付往々政府ト樞密院トノ間ニ意見ノ一致ヲ見ス意外ノ紛紜ヲ生シタルコトアリ從テ樞密院ニ諮詢スヘキ國際約束ノ範圍如何ハ國務ノ圓滿ナル遂行ヲ期スル上ヨリシテ一日モ速ニ樞密院及政府間ノ議ヲ繼メ必要アラハ現行官制ノ改正ヲ斷行シ以テ此點ニ關スル疑義ヲ除去スルノ必要アリトス

條約及約束ニ對スル樞密院ノ諮詢範圍ヲ明確ナラシムルノ必要上述ノ如シ然レトモ如何ナル方案ニ依リ之ヲ解決スヘキヤハ甚シク困難ナル問題ニシテ其ノ解決方法ノ如何ニ依リテハ却テ政府ノ希望ニ反シ樞密院ノ諮詢範圍ヲ從來ノ慣例ヨリモ更ニ廣汎ナラシムルノ結果

外 務 省

B-0034

(赤 標 紙) イ

ニ陷ルナキヲ保セス故ニ本件ニ付テハ政府側ニ於テ豫メ充分ノ研究ヲ遂ケ慎重ナル態度ヲ以テ樞密院側ト商議スルノ要アルハ勿論ナリトス

茲ニ本件解決ノ方法トシテ試ニ左ノ如キ二案ヲ作成セリ右ニ付テハ政府部内ノ議論ムル前ニ先ツ省議ノ決定ヲ要スルニ付何分ノ御決定ヲ仰キ度

第一案

樞密院官制ニ依ル諮詢ノ範圍ヲ批准條項ヲ含ム條約又ハ國際約束ニ限定スルコト

一、條約、協約、約束等其ノ名稱ノ如何ヲ問ハス批准條項アルモノ(批准條項ヲ有スル國際約束ニ加入ノ場合ヲ含ム)

外務省

(赤 標 紙) イ

二、批准條項ノ明記ナキモ關係國間ニ批准ヲ要スヘキ旨ノ了解アルモノ

三、附屬約束、議定書等ニシテ本條約ト一體ト爲スヘキコト又ハ本條約ト共ニ批准アリタルモノト看做スヘキコトノ記載アルモノ

諮詢ノ時期

批准ヲ要スル國際約束ハ署名後批准前樞密院ニ諮詢方取計フモノトス

第一 批准條項ヲ有スルモノニ限ルノ理由

一、樞密院官制ニハ列國交渉ノ條約及約束トアルモ樞密院ハ重要ナル國務ヲ諮詢セラルル所ナルヲ以テ條約及約束ニ付テモ其ノ重要

外務省

B-0034

0192

ナルモノニ限り諮詢セラルルコト樞密院ノ性質上ヨリ見テ當然ノ
處置タルヘク而シテ如何ナル條約及約束ヲ以テ所謂重要ナルモノ
ト認ムヘキカハ論議ノ岐ルル點ナルモ以下列記スル諸般ノ理由ニ
基キ之ヲ批准條項ヲ有スルモノニ限ルコトニ定ムルヲ以テ國務ノ
遂行上最モ適當ナリトス

二、各國ノ實例ヲ見ルニ我國ノ樞密院ニ類似ノ機關ヲ存スルモノ少
ク唯三四ノ例外アルモ此等ノ國ニ於テモ國際約束ヲ此ノ機關ニ附
議スルハ全然形式ニ止マリ何等重要ノ意義ヲ有セサルカ如シ反之
何レノ國ニ於テモ國際約束ノ締結ニ付議會ニ對シ何等カノ權限ヲ
認メサルモノナシ今此ノ點ニ關シ各國ノ制度ヲ通觀スルニ國際約
束中特定事項ニ限り議會（又ハ上院）ニ附議スヘシト爲ス國アリ

外務省

(赤松氏)

其ノ中多クハ議會ヘノ附議事項ヲ批准條項ヲ含ム國際約束ノ一部
ニ限り只少數ノ國ニ於テ批准條項ヲ含ムモノヲ全部議會ニ付議ス
又國際約束ハ原則トシテハ總テ之ヲ議會ニ付議スルノ制ヲ執リ而
シテ或ハ法律ノ委任ニ依リ或ハ行政權ノ範圍ニ屬スル事項トシテ
或ハ慣行ニ依リ一定ノ事項ニ關スル國際約束ハ議會ノ協贊ヲ要セ
サルコトヲ定メタルモノアリ斯ク國ニ依リ其ノ主義ヲ同フセスト
雖モ大體ニ於テ批准條項ヲ含マサル國際約束ハ豫メ之ヲ議會又ハ
樞密院ニ付議スルコトナク政府單獨ノ責任ヲ以テ之ヲ締結スルノ
點ニ至リテハ各國其ノ軌ヲ一ニス換言スレハ各國ニ於テハ批准條
項ヲ含ム國際約束中如何ナル程度迄議會ニ付議スルヤ否ヤノ問題
存スルモ批准條項ヲ含マサル國際約束ニ付議會ニ對スル付議ノ問

外務省

B-0034

0193

題生スルコトナシ然ルニ我國ニ於テハ批准條項ヲ有セサル國際約
束ニ付テモ亦之ヲ樞密院ニ付議スルノ制ヲ執レルヲ以テ常ニ相手
國ニ對シ我特異ノ法制ヲ了解セシムルノ要アリ從テ之等ノ制度ヲ
執ラサル諸國ニ於テハ容易ニ之ヲ了解セス爲ニ錯誤ヲ生シ易シ
三、近來國際會議頻繁トナリ殊ニ聯盟關係ノ各種ノ會合即總會、理
事會ニ於テハ輕易ナル事項ニ付テハ批准條項ヲ附セサル國際約束
ヲ結ハントスルノ傾向強キヲ加フルニ至レリ各國ハ輕易ナル事項
ニ付テハ多クノ場合ニ於テ實質ヲ主トシ形式ニ重キヲ置カサルノ
習慣アリ爲ニ我國獨リ苦境ニ陥ルコトナシトセス
四、支那ニ於ケル特殊ノ事態
最近締結セラレタル重要ナル條約ハ調印後支那側ニテ瀕出スルヲ

外務省

(赤松氏)

常トスル諸種ノ故障ヲ避クル爲メ假令批准條項ヲ含ミタル場合ト
雖モ總テ調印ノ日ヨリ之ヲ實施スル旨規定セリ
批准條項ヲ含マサル國際約束ニ付テモ同様ニシテ談判成立セハ直
ニ調印シテ取敢エス事態ヲ確定セシムルノ要アリ談判成立後調印
ヲ延ハシ不確定ノ儘時日ヲ遷延スルトキハ其ノ間支那側ニ於テ之
ヲ緩カヘサムトスルノ運動ヲ惹起シ所期ノ目的ヲ達成スル上ニ於
テ大ナル障礙ヲ來スノ虞アリ山東細目協定ノ如キ二三ヶ月モ無用
ノ議論ヲ爲シタル後最後ノ一週間ニ協定成立シ而モ調印ノ日迄修
正ヲ申出タル有様ナリ
要之國際約束締結ニ付從來支那ニ限リテ特異ナル形式ヲ執リタル
ハ全ク右様ノ事情ニ基クモノニシテ將來モ尙此ノ事態ハ繼續スル

外務省

B-0034

モノト見サルヘカラス

五、從來批准條項ナキ國際約束ノ處理方ヲ見ルニ政治的約束ハ殆ト總テ事後樞密院ニ報告スルニ止メ其ノ中重要ナルモノニ付テハ特ニ勅語ヲ副ヘテ樞密院ニ報告セラレタルカ歴代ノ政府カ斯クノ如キ措置ヲ執ラサルヲ得サリシ事情ハ大ニ之ヲ諒トスヘキモノアルヘシ

六、國際約束ノ締結ハ天皇ノ大權ニ屬スルコトハ云フヲ俟タサル所ナルモ大權ノ行使ニ付テ政府又ハ行政廳ニ對シ其ノ權限ト職責トニ照シテ一定ノ事項ノ實施ヲ委託セララルルハ素ヨリ何等妨ナキ所ナリ

七、國內法令ニシテ樞密院ニ付議セララルルモノハ重要ナル特殊ノモ

(赤 林 氏)

外 務 省

(赤 林 氏)

ノニ限ラル條約及約束ニ付テモ其ノ内容ヲ見レハ極メテ重要ナル事項アルト同時ニ亦國內法ニ對比スレハ勅令又ハ省令以下ヲ以テ規定スルヲ得ヘキ事項ヲモ含メリ此等ヲ一々樞密院ニ付議スルコトハ事柄ノ性質上權衡ヲ得ス加之從來國際關係ノ頻繁ナラサリシ時代ニ於テハ國家ヲ制束スヘキ國際約束ハ其ノ數モ少ク又其ノ内容モ重要ナル事項ニ關スル場合多カリシヲ以テ之カ取扱ヲ鄭重ニ爲スコト當然ナリトモ云フヘク且意義アルモノナリシト雖モ國際關係カ非常ニ頻繁トナリ從テ國際約束ヲ結フノ機會及範圍カ著シク擴大セラレタル今日ニ於テ我國獨リ依然トシテ舊套ヲ墨守スルコトハ樞密院官制制定ノ真意ニ副ハサル處アルノミナラス徒ラニ其ノ手續ヲ煩雜ナラシメ國務ノ進行ニ妨クル所尠カラス

4.3

外 務 省

B-0034

0195

第二 批准條項ヲ附スヘキ條約及約束ノ範圍
如何ナル條約及約束ニ批准條項ヲ附スヘキヤハ最も重要ニシテ亦困難ナル問題ナリ

條約及約束ハ相手國アリテノコトナレハ相手國ノ制度ノ如何ヲモ考慮スルヲ要ス今各國ノ制度ヲ通觀スルニ前述ノ如ク各國ニ於テハ一定ノ事項ニ限り議會ニ付議スルノ制度ヲ採ル國ト議會カ主權者タル關係上一切ノ條約及約束ノ締結ニ付テモ原則トシテ議會ニ權限アリト爲ス國ト存在スル處其ノ何レニ屬スルト雖議會ニ附議ヲ要スル國際約束ハ總テ批准條項ヲ含マシムルヲ原則トス
一定ノ事項ニ依リ議會ニ付議スルノ原則ヲ採ル國ニ於テハ付議事項ハ廣狹必スシモ一ナラサルモ概言スレハ左ノ事項ノ範圍ニ出テス

外務省

4.3

(1) 立法事項ニ關スルモノ (現行法ヲ改廢スルモノ及國民ノ權利義務ニ關スルモノ含ム)

(2) 領土ノ變更

(3) 國家ニ財政上ノ負擔ヲ課スルモノ

(4) 講和條約

(5) 通商及關稅條約

(6) 其ノ他重要ナル條約

此ノ種ニ屬スル國ニ於テハ議會ニ付議スル範圍ハ其ノ憲法又ハ法令ヲ以テ之ヲ規定セルヲ以テ比較的明瞭ナリ然レトモ之ヲ批准條項ヲ附スヘキ國際約束ノ範圍如何ノ點ヨリ見ルニ此ノ種ニ屬スル國ノ中付議事項ニ關スル國際約束ニ限り批准條項ヲ含マシムル多少ノ例外

外務省

4.3

B-0034

0196

ヲ除キ多クノ國ニ於テハ付議事項ハ批准條項ヲ有スル國際約束ノ一部ニ過キス從テ此ノ種ニ屬スル國ニ於テハ付議事項ニ關スルモノ以外ニ如何ナル範圍ニ於テ批准條項ヲ含マシムルヤヲ明ニスルノ要アル處各國共批准條項ヲ附スヘキ國際約束ノ範圍ニ關シテハ法規又ハ慣例ノ一定スルモノナク從テ議會ヘノ付議事項以外ニ於テ如何ナル約束ニ批准條項ヲ含マシムヘキヤニ關シテハ全ク政府ノ裁量ニ一任セララルカ如シ

議會カ主權者タル關係上一切ノ條約及約束ヲ締結スルヲ其ノ權限ト爲ス國ニ於テハ批准條項ヲ含ム範圍ト付議事項ノ範圍ト概シテ一致ス但前述ノ如ク此等ノ國ニ於テモ實際ニ於テハ特定ノ事項ニ付テハ議會ノ協贊ヲ要セサルモノトシテ之ヲ政府ニ一任セリ而シテ其ノ範

外務省

(赤 枠 紙) 1

國等ハ概シテ政府ノ認定ニ任セラレタルヲ以テ一定セス從テ批准條項ヲ有スヘキ約束ノ範圍ハ伸縮自在ナリ

要之國際上ノ慣例ヨリスルモ又各國ノ法制上ヨリスルモ批准條項ヲ附スヘキ國際約束ノ範圍ニ付テハ之ニ關シ一定ノ漠然タル範圍存在スト云フヲ得ヘキモ必スシモ確定セス時ト場合トニ應シ伸縮ノ餘地ヲ存ス即チ各國中批准條項ヲ含ムモノノ一部ノミヲ議會ニ付議スルノ制度ヲ執ル國ニ於テハ勿論批准條項ヲ含ムモノ全部ヲ原則トシテ付議スル國ニ於テモ其ノ法制及慣行上付議範圍ノ如何ハ政府ニ於テ自由裁量ノ餘地ヲ存シ各國ノ場合ニ付協議ニ依リ適宜此ノ問題ヲ處置シ居レリ上述ノ次第ナルニ依リ我國ニ於テ如何ナル國際約束ニ批准條項ヲ含マシムヘキヤニ付テハ前掲ノ重要ナル事項ヲ標準トシテ

外務省

B-0034

國際慣例ニヨリ政府ニ於テ適宜處理スルコトト定ムルノ外ナシ

(備考)

實質上ヨリ云ヘハ我國ニ於テモ

- (1) 立法事項 (國民ノ權義ニ關スルモノ及法律ヲ變更スルモノヲ含ム)

- (2) 財政上ノ負擔ヲ課スルモノ

- (3) 通商條約

等ハ必ス批准條項ヲ要スヘシ

勅令ニシテ規定シ得ヘキ事項ニ關スル場合ニハ事柄ノ如何ニ依リ必スシモ批准條件ヲ要セス尤モ裁可ヲ要スヘシ但シ勅令ノ場合ト同シク裁可ヲ要スルモノカ必スシモ總テ樞密院ニ付議ヲ要スル次

(赤 林 氏)

外 務 省

第ニアラスト認ム

第三 實行方法

(一) 樞密院官制ニ關シ

一 必要ニ應シ樞密院官制ニ修正ヲ加フルコト

一 又ハ樞密院官制中ノ「列國交渉ノ條約及約束」ノ解釋問題トシテ之ヲ取扱フコトヲ得ルニ於テハ右ノ條約及約束トハ批准ヲ要スル國際約束ト解釋スヘキ旨樞密院ノ諮詢ヲ經テ上奏裁可ヲ仰クコト (成ルヘク第二ノ方法ニ依リタシ)

(二) 國際約束公布ニ關シ

一 公式令第八條ノ國際條約ハ批准條項ヲ要スル國際約束ニ限リ其ノ趣旨ニテ右第八條ヲ修正シ又別ニ批准ヲ要セサル國際約束ノ

(赤 林 氏)

外 務 省

B-0034

0198

公布ノ形式ニ關スル一條ヲ公式令ニ追加スルコト
又ハ

公式令第八條ノ規定ハ其ノ儘トシ實行上右規定ニ依リ公布スル
國際約束ハ現在ノ通批准ヲ要スルモノニ限ルノ了解ニテ措置ス
ルコト又批准ヲ要セサル國際約束ハ從來外務省告示ヲ以テ或ハ
官廳彙報欄ニ於テ或ハ逕信省ニ於テ締結スル各種ノ郵便ニ關ス
ル國際約束ノ如ク之ヲ條約第何號トシテ公布形式一定セサルモ
將來之カ公布式ヲ一定シ官報ニ新ニ國際約束欄ヲ設ケ批准ヲ要
セサル國際約束ハ總テ國際約束第何號トシテ公布スルノ慣例ヲ
開クコト

第二案

外務省

諮詢ノ範圍ヲ原則上從來ト同様トス（緊急ノ必要アル場合ノ取扱振
モ從前通りトス

但シ第一案ニ掲ケタル理由ニ依リ列國相手ノ約束ニ我國獨リ慎重ナ
ル手續ニ依ルコトヲ不利トスル事情アルヲ以テ批准條項ヲ有セサル
約束ニシテ左ノ事項ニ當ルモノハ諮詢ヲ仰カサルコトトス

- 一、條約又ハ法律ノ委任アリタル場合
- 二、條約ノ實施ニ關スル場合
- 三、既存條約ノ細目、手續等ヲ定ムルコトニ通スル場合
- 四、慣例上又ハ法ノ解釋上純然タル行政事項ニ關スル場合
- 五、行政上ノ専門的又ハ技術的事項ニ關スル場合
- 六、通商及航海條約ニ關スル事項ニシテ暫行取扱ニ關スルモノ但

外務省

B-0034

0199

シ現行國法ニ對シ何等ノ變更ヲ加フルコトナキモノハ此ノ限ニ在ラス

諮詢ノ時期

批准ヲ要スル國際約束ノ諮詢時期ニ付テハ第一案ノ通
批准ヲ要セサル國際約束中樞密院ニ諮詢セラルヘキモノノ諮詢ノ
時期ハ原則トシテ調印前トス但シ約束中ニ政府ノ承認ヲ留保セル
條項アルモノ、約束ノ效力ヲ生スル時期ヲ別ニ定メアルモノ、其
ノ他調印ノ時ヨリ直ニ效力ヲ生スルモノニアラサルノ趣意ヲ定メ
タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一理由

樞密院ノ諮詢範圍ヲ原則トシテ批准條項ヲ含ムモノニ限ルノ理由ハ

(赤林紙)

第一案ニ述ヘタル通ナリ

又批准ヲ要スルモノ以外ニ付テハ其ノ重ナルモノニ限り樞密院ニ諮
詢スルコトトナスヘキハ樞密院カ重要ナル國務ヲ審議スル處ナルニ
徴スルモ當然ノコトナルノミナラス此ノ點ニ付テハ從來既ニ政府ト
樞密院トノ間ニ大體了解成立シ居レリト認ムヘキカ如シ

之ヲ諸國ノ例ニ徴スルニ多クノ國ニ於テハ國際約束中議會ニ付議ス
ル範圍ハ之ヲ批准條項ヲ含ムモノノ一部ニ限り而シテ少數ノ國ニ於
テ批准條項ヲ含ム範圍ト議會ニ付議スル範圍ト一致スルモノアルモ
議會ヘノ付議事項カ批准條項ヲ含ム國際約束ノ範圍ヨリ廣キカ如キ
實例殆ン下存在セス何レニスルモ第二案中批准條項ヲ含マサルモノ
ノ中特ニ樞密院ノ諮詢ヲ要セサルモノトシテ掲記セル各項ノ如キ

B-0034

ハ各國ニ於テ總テ批准ヲ要セス且議會ヘ付議ヲ要セサル範圍ニ屬ス

第二 實行方法

(一) 樞密院官制ニ關シ

必要ニ應シ樞密院官制ニ修正ヲ加フルコト

又ハ

樞密院官制中ノ「列國交渉ノ條約及約束」ノ解釋問題トシテ將

來本案ノ如ク措置シ得ル様樞密院ノ諮詢ヲ經テ上奏裁可ヲ仰ク

コト

(二) 國際約束ニ關シ

第一案ト同シ

外務省

B-0034

020

國際約束ニ關スル樞密院ノ權限ノ沿革的考察 (大正十二年二月作成)

第一節 樞密院へ附議ノ時期

第一今日ニ於テハ政府樞密院間ニ次ノ如キ了解成立シ居ルモノト云フヲ得ヘシ「國際約束ヲ樞密院ニ附議スルハ外交上時期切迫ノ際ニ非サル限りハ其ノ調印(又ハ公文交換等)ヲ爲ス前ニナスコトヲ要ス」

右ノ了解最明確トナリシハ大正四年大隈内閣ノ時ナリ同内閣カ單獨不講和宣言加入(大、四、十、十九公文交換)ノ件ヲ樞密院ニ事後報告シタル際(大、四、十一、三)樞密院政府間ニ激論アリ其ノ結果翌年三月ニ至リ大隈總理大臣ハ樞密院ニ於テ倫敦宣言加

外務省

(赤林紙) 4

入ノ件ノ如キハ「文書交換前御諮詢ヲ經ルノ時日無カリシニモ非ス然ルニ内閣ニ於テ御諮詢奏請ノ手續ヲ履マサリシハ今ニ至テ遺憾トスル所ナリ」ト述ヘタリ而シテ其ノ後ニ於テ右ノ了解ヲ裏書スルモノトシテ支那改訂輸入税率承認ノ件審議ノ際(大、八、三、二十四樞府會議)末松顧問官原總理大臣末松顧問官「外國トノ條約約束モ種々雜多ニテ一概ニ云フコトヲ得サルヘシ又其ノ種類如何ニ依リ或物ハ成立ノ前ニ又或物ハ其ノ事後ニ附議相成リテ然ルヘシ今日御注意申上ケルハ本件ノ如キハ政府ニ於テモ支那ニ對シ現實五分引上ケノ主義ヲ承認セラルル以前ニ樞密院ニ附議セラルルヲ可トスルモノニ非ラスヤトノ點ナリ外交上時期切迫ノ際ニハ兎ニ角然ラサル場合ニハ外國トノ約束成立シ最早動キノ付カヌモ

4.3

外務省

B-0034

0202

ノトナル以前ニ御協議相成ルコトトシタシ「原總理大臣「支那關
稅改正現實五分引上ケノ主義決定セシハ前内閣ノ時ナレハ茲ニ兎
角ノ辯明ヲ試ミス併シ其ノ性質重大ナル外國トノ條約約束ハ未タ
政府ヲ拘束スルニ至ラサル以前ニ樞密院ニ附議セヨトノ御注文ナ
ラハ是全然本大臣ノ意見ト一致スル所ナリ尤モ樞密院ハ内閣ヨリ
上奏セル議案ノミニ御諮詢アル次第ナルニ付上奏セサル事項ニ付
テハ御協議ノ餘地ナク又外交上ノ條件ニシテ未タ談判ノ纏マラサ
ル間ハ御協議ノ仕様モナキ次第ナルモ其ノ性質ノ重大ナル事項ニ
シテ外國トノ間ノ交渉纏リタルトキハ其ノ最終決定以前即チ政府
ヲ拘束スルニ至ラサル以前ニ御協議スヘシ」
第三單獨不講和宣言加入問題以前ニ於テ右ノ了解果シテ極メテ明確

(赤 紙)

外 務 省

ナリヤ否ヤ疑ハシ極メテ重大ナル國際約束ニ付テ右ノ了解存在セ
ルハ勿論ナルヘキモ左迄重要ト認メラレサルモノニ付テモ同様ノ
了解存在シタルヤ否ヤ疑問ナリ
(註) 單獨不講和宣言加入問題以前ニ於テ調印後樞密院ニ諮詢
又ハ報告セラレタル事例抄ナカラサル處之等ハ常ニ調印前諮
詢スルノ途ナカリシモノト解セラレタルモノナリヤ否ヤ疑問
ナリ或ハ左迄重要ナラサル國際約束即樞密院ニ諮詢スルヲ要
スル國際約束(重要ナルモノ)ト樞密院ニ諮詢スルヲ要セサ
ル國際約束(重要ナラサルモノ)トノ中間ニ位スル國際約束
ニ付テハ古クハ事後報告ノ形式ニ依リ得ルノ慣行アリタルニ
非サルヤト認メラルル節アリ(附錄道家氏談參照) 大隈内閣

(赤 紙)

外 務 省

B-0034

ハ最初單獨不講和加入ノ公文交換ハ此ノ慣行ニ從フヘキ性質ノ國際約束ト認メタルモノノ如シ

第ニ外交上時期切迫ノ爲メ御諮詢ヲ經スシテ國際約束ヲ締結シタルトキハ樞密院ニ勅語ヲ賜ハルノ慣例明治三十五年第一回日英協約ニ關シ開カレタリ然レトモ樞密院ニ勅語ヲ賜ハルハ比較的重要ト認メラルル政治的國際約束ノ場合ニ限ラルルモノノ如シ

(註) 明治三十五年後ニ於テ樞密院ニ報告スルニ當リ勅語ヲ賜ハルコトナカリシ國際約束左ノ如シ但シ此等ノ國際約束ハ前ニ一言セル如ク調印後報告スレハ足ル種類ノモノト認メラレタルモノナルヤモ知レス

一 家屋税問題仲裁裁判ニ關スル議定書(明、三五、八、二十

外務省

十八)

一 日韓兩國秘密條約(明、三七、二、二十三)

一 通信機關委託ニ關スル日韓取極書(明、三八、四、一)

一 司法及監獄事務委託ニ關スル日韓覺書(明、四二、七、十
二)

一 間島ニ關スル日清協約及滿洲五案件ニ關スル日清協約(明
四二、九、四)

一 警察事務委託ニ關スル日韓覺書(明、四三、六、二十四)

一 單獨不講和宣言加入(大、四、十、十九)(本件カ樞密院
ニ於テ問題トナリタル後此ノ形式ニテ樞密院ニ報告セラレ
タルモノナシ)

外務省

B-0034

0204

第四 調印後御裁可ヲ仰ク國際約束ニ付テハ調印後御諮詢アルヲ例ト
ス

(註) 調印後御裁可ヲ仰ク國際約束ニハ左ノ二種ヲ含ム

(イ) 御裁可又ハ政府ノ承認ヲ條件トシテ調印セラレシモノ

(ロ) 前項以外ノモノ即對外的ニハ御裁可ヲ條件トシテ調印シタ
ルニ非サルモ對内的ニ御裁可ヲ條件トシ居ルモノ、此ノ種

ノモノニアリテハ若シ調印後御裁可ヲ賜ハラサリシ場合ニ

ハ政府ノ重大ナル責任ヲ生スヘキカ故ニ原則トシテハ調印

前御裁可ヲ仰クル可トスルモ緊急已ムヲ得サル場合ニハ事

後御裁可ヲ仰ク

第一節 樞府へ附議スヘキ國際約束ノ範圍

外務省

外務省

(赤 標 紙)

第一 御批准ヲ要スル國際約束ニ常ニ御諮詢アリタリ

第二 御批准ヲ要セサル國際約束ニ付テハ其ノ重要ナルモノノミヲ樞

密院ニ諮詢スルコトニ政府樞密院間ニ了解サレ居レリ此ノ點ニ關

スル政府樞密院間ノ交渉ノ事例左ノ如シ

一 大隈伯外相ノトキ「形式ノ輕キモノ」ハ樞密院ニ諮詢スルヲ要

セスト云フコトニ樞密院外相間ニ話合ヲ逐ケタリ(附屬道家齊

氏談)

二 大正四年單獨不講和宣言加入ノ件ニ關スル大隈總理大臣ノ陳辯

中ニ「倫敦宣言加入ノ件ノ如キハ其ノ内容ニ於テ重要ノ國務ニ

屬シ又文書交換前御諮詢ヲ經ルノ時日無カリシニモ非ス然ルニ

内閣ニ於テ御諮詢奏請ノ手續ヲ履マサリシハ今ニ至テ遺憾トス

外務省

B-0034

0205

ル所ナリ」ト述ヘタリ

「大正八年支那改訂輸入税率承認ノ件樞密院審議中原總理大臣ハ「其ノ性質ノ重大ナル事項ニシテ外國トノ間ノ交渉纏リタルトキハ其ノ最終決定以前即チ政府ヲ拘束スルニ至ラサル以前ニ御協議スヘシ」ト述ヘタリ

然レトモ實際ノ取扱トシテ如何ナルモノヲ重要ト認ムヘキヤヲ決スル準則ナシ御裁可ヲ仰ケル國際約束ハ多ク御諮詢相成リタレトモ御諮詢ナカリシモノモアリ夫ノ單獨不講和宣言加入ノ件ニ關スル政府樞密院間ノ衝突モ畢竟本件ヲ重要ト認ムルヤ否ヤノ見解ノ差異ニ起因シタルモノノ如シ但シ茲ニ注意ヲ要スルハ樞密院ニ諮詢スルヲ要スト認メラルル範圍ハ漸次擴大シツツアルコトナリ之

外務省

(赤印紙)

レ蓋シ政府樞密院間ノ意見ノ衝突アルトキハ概ホ政府側ニ於テ讓歩シ來リタルニヨル例ヘハ

「大正四年日支條約附屬ノ交換公文ハ最初參考書類トシテ提出セラレタレトモ後ニ至リ御諮詢ノ形式ヲトレリ(此ノ間樞密院外務省間ニ何等カノ交渉アリタルモノト察セララルモ記録ヲ缺ク)

「羅馬締結小包郵便物交換條約第五條中修正ノ件(大正四年)ヲ御諮詢ナカリシコトヲ樞密院ヨリ指摘セラレタル際政府ハ將來「本件ノ如キ投票棄權ノ場合ニハ樞密院ニ御諮詢相成様手續致スコト」ヲ約セリ

「聯盟規約改正議定書御諮詢ノ際經濟封鎖ニ關スル第二回聯盟總會ノ決議ヲ初メ參考トシテ樞密院ニ提出セルモ後ニ至リ樞密院

外務省

B-0034

0206

個ノ要求ニヨリ之ヲ御諮詢案トナセリ

第一 第批准ヲ要スル條約ニ附屬スル御批准ヲ要セサル國際約束ハ概
ホ本條約御諮詢ノ際本條約ニ添付シ樞密院ニ提出セラレタリ其ノ
或モノハ「爲參考」ナルコトヲ明白ニシ居レトモ大多數ノモノニ
アリテハ參考ノ爲提出スルモノナリヤ諮詢ノ爲提出スルモノナリ
ヤヲ區別スルコト困難ナリ本條約ノ御批准奏請ヲ總理大臣ニ依頼
スルニ當リ尙「、、、、別紙丙號ノ議定書ニ署名致候ニ付右
御承知置相成度」ト追テ本文條約ト共ニ最終議定書議定致候ニ付
此段申添候也」ト云フカ如キハ之等ノ附屬約束ヲ參考ノ爲又ハ報
告ノ爲提出スル趣意ナルカ如キモ尙或意味ニ於テ御諮詢ヲ奏請ス
ルモノト解シ得サルニ非サルヘシ（何トナレハ附屬約束不満足ナ

外務省

ルトキハ本條約ノ御批准ニ反對スルコトニヨリ附屬約束ヲ不成立
ニ終ラシムルコトヲ得ヘシ）

此ノ點ニ關シ古クハ問題トナリタルコトナク又如何ニ解釋セラレ
タルモノナルカ記録ノ徵スヘキモノナシ純理論トシテハ之等ノ附
屬約束ノ多數ハ正式ニ御裁可ヲ仰キタルモノト解シ得ヘカラス從
テ正式ニ御諮詢相成リタルモノト解スヘキニ非サルヘシ（註）然
レトモ今日ニ於テハ「爲參考」ナルコトヲ明記セスシテ本條約ニ
添付提出スルハ一種ノ御諮詢ト了解セララルカ如シ
例ヘハ

「樞密院ハ本條約ニ添付提出セラレタル華盛頓會議ヲ諮詢アリタ
ルモノト解シ又

外務省

B-0034

→ 樞密院カ華盛頓會議ニ於ケル幣原聲明、山東條約ニ關スル了解事項、第二回聯盟總會決議ヲ樞密院ニ諮詢スルコトヲ要求シタル際政府ハ之ニ應シ本條約ニ添付提出セリ

(註) 若シ間接ノ御裁可ナルモノヲ觀念シ得ルナラハ此ノ種附屬ノ約束ノアルモノ殊ニ本條約ノ批准ニ依リ附屬約束モ御承認アリタルモノト看做サルル場合ニ於テハ間接ニ御裁可ヲ仰キ間接ニ御諮詢アルモノト解シ得ヘシ然レトモ實際ニ於テ斯クノ如キ「ミドルグラウンド」ハ認メラレ居ラス

第四御諮詢ヲ經テ成立シタル國際約束ノ改正ニハ必ス御諮詢ヲ要スルヤ否ヤ

理論的ニ考察スレハ重要ナル改正ニ付テハ御諮詢ヲ要スヘキモ其

外務省

ノ輕微ナルモノニ付テハ御諮詢ヲ要セサルヘシ例ヘハ「オットセイ」保護條約ノ批准書交換手續ニ變更ヲ加ヘタル批准寄託覺書(明、四四、十二、十二)ハ御諮詢ヲ經サリキ但シ該覺書ハ變更ヲ加ヘタル事實ヲ明確ナラシメサル様起草セラレタリ大正四年中萬國小包郵便條約改正ノ件ニ付問題トナリシコトアレトモ(註)之ニヨリテ政府樞密院間ニ一般的ニ明確ナル了解成立シタルモノト見ルコトヲ得サルヘシ

(註) 萬國小包郵便條約第五條中改正ノ件ニ付樞密院ニ御諮詢ナカリシコトニ關スル樞密院ニ於ケル質問ニ對シ初メ政府側ヨリ「該修正ハ形式ニ於テ均シク條約ノ修正ナリト雖其ノ實質頗ル輕微ニシテ本邦ニ關係スル處極メテ薄キノミナラス先

外務省

B-0034

0208

例モ有之差支ナキモノト認メタル旨ヲ辯明シタル處樞密院書記官長ヨリ「樞密院會議ノ席上質問ノ主意ハ今後本件ノ如ク條約又ハ約束ノ内容ヲ變化スル場合ニ於テハ豫メ上奏及樞密院へ御諮詢ノ奏請等ノ手續ニ關シ内閣ニ於ケル將來ノ見込ヲモ包含スルニ付此ノ點ニ關シテモ回答アリタキ」旨申來レリ於是政府側ハ閣議ヲ經テ「將來ハ本件ノ如キ投票棄權ノ場合ニハ樞密院ニ御諮詢相成様手續致スコト」ヲ樞密院ニ通達セリ

(附記) (明治四十年頃ノ記録カト覺ユルモノニ左ノ訓書アリ) 二月二十五日道家齊氏ニ就キ同氏カ樞密院在職中ニ知得シタル事實ヲ聞タルニ大要左ノ如シ

外務省

何年頃ナリシカ記憶セサルモ大隈伯外相タリシトキト覺ユ或ル事件ニ付樞密院ト外務省間ニ交渉起リ樞密院令中ノ「條約及約束」ナル文字ノ意義ニ關シ相談ヲ開クコトトナリ結局輕易ナル形式ヲ以テ或種ノ約束ヲナスハ外交事務ノ常事ナルノミナラス囑隨ノ内ニ或ル約束ヲ結ビ直チニ之ヲ實施スル必要アルカ如キ場合ニ必ス御諮詢ヲ要ストナストキハ外交事務ノ活動ヲ害スルノ虞アリ依テ形式ノ輕キモノハ同令ノ「約束」ナル文字ニ包含セスト解釋スルコトニ繼マレリ此ノ相談ノ一方ノ關係者ハ當時ノ翰長平田氏ナリト覺ユ又議定書ニ就キ外相カ樞密院ニ於テ説明ヲナスノ例ハ別ニ何等ノ相談ニ基クモノニアラサルヤニ覺ユ尙「小林ウエパー」田縣ロバノフ「西ローゼン」三約束ハ何レモ樞密院ニ御諮詢ナシ

外務省

B-0034

0209

右ノ次第ニ付從來議定書及之ニ類スルモノハ御諮詢ナキヲ例トスル
モノト認ムルヲ得ヘクニ現ニ「小林^エウ^エパー」覺書、「山縣ロバノ
フ」議定書、「西ローゼン」議定書、日英協約、義和團事件ニ關ス
ル最終議定書、家屋税ニ關スル議定書、明治二十九年ノ日清議定書
ノ如キハ何レモ御諮詢ナカリシヤニ認メラル

(赤林氏)

外務省

43

B-0034

0210

批准ヲ要セサル國際約束ノ樞府付議ト公布ノ形式ニ關スル件

(昭和二年九月作成)

第一節 批准ヲ要セサル國際約束ノ公布ノ形式

第二節 批准ヲ要セサル國際約束ノ樞密院附議ノ時期

第三節 樞密院ニ諮詢スヘキ國際約束ノ範圍

外務省

4

(赤林紙)

第一節 批准ヲ要セサル國際約束ノ公布ノ形式

批准條項ヲ含マサル國際約束ノ公布形式ニ付テハ先例區々ニシテ一定セス(一)條約第何號トシテ上諭ヲ附シテ公布セルモノ(二)外務省告示トシテ公表セルモノ(三)外務省以外ノ省ノ告示トシテ公表セルモノ(四)官報彙報欄ニ官廳事項トシテ公表セルモノアリ
附屬表(一)乃至(四)ニ例示セルカ如シ

批准條項ヲ含マサル國際約束ニシテ條約トシテ公布セラレタルモノハ主トシテ郵便約定ニシテ之ヲ外ニシテハ日露會社互認ニ關スル協約(明治四十四年六月三十日公布)日佛通商關係ニ關スル暫定協約(明治四十四年八月二十八日公布)日佛通商關係ニ關スル千九百十一年八月十九日ノ暫定協約延期ノ協約(明治四十四年十二月二十八

外務省

B-0034

日公布)アリ郵便約定ノ締結公布ノ手續ニ付テハ逡信省ニ於テ閣議、
 樞密院議、御裁可奏請等ニ必要ナル手續ヲ取り來レルカ外務省ハ右
 ハ單純ナル業務取扱ニ過スシテ此ノ種ノ内容輕易ナル國際約束ニ付
 テハ御裁可奏請等ノ重大ナル手續ヲ取ルヲ要セサルヘク其ノ公布ノ
 手續ニ付テモ批准書交換ノ形式ニ依ラサル國際約束ハ條約第何號ト
 シテ公布スルコトヲ得ストノ外務省ノ主張ニ悖ルノミナラス外交機
 關ノ仲介ヲ經サル國際取扱ヲ條約第何號トシテ取扱フハ國際間ニ所
 謂「條約」ナル觀念ニモ反スルヲ以テ爾今批准交換ノ手續ニ依ラサ
 ル郵便約定ヲ條約欄ニハ公布セサルヲ可トス即郵便約定ニ付テハ
 (一)批准交換ノ形式ニ依ルモノ
 批准條項ヲ含ム郵便約定ニシテ之ニ付テハ從前ノ慣行ニ從フ

(赤 梓 紙)

外 務 省

(二)批准交換ノ形式ニ依ラサルモノ
 (イ)性質重要ナル取扱
 外務逡信兩大臣其ノ事ニ當リ其ノ公布ハ兩大臣ノ告示ヲ以テス
 ヘシ
 (ロ)單純ナル郵便業務取扱
 逡信大臣限りニ於テ之ヲ取扱ヒ其ノ公布ハ逡信大臣ノ告示ヲ以
 テスヘシ
 (註一)理論ハ上述ノ如クナルモ郵便約定ハ逡信大臣之ヲ取扱ヒ
 條約第何號トシテ公布スルノ慣例ハ既ニ確立セルモノノ如ク
 之ヲ變更スルハ頗ル難事ナルヘシ郵便約定ノ施行細則ニ關ス
 ル取扱ヲ逡信大臣ノ告示トシテ公表スルノ慣例(附屬表三參

(赤 梓 紙)

外 務 省

B-0034

照)ハ之ヲ變更スルノ必要ナシ

(註二)日露會社互認ニ關スル協約、日佛通商關係ニ關スル暫定協約、日佛通商關係ニ關スル千九百十一年八月十九日ノ暫定協約延期ノ協約ノ三者カ何故ニ外務省ノ主張スル理論ニ反シテ批准條項ナキニ拘ラス條約トシテ公布セラレタルカハ記錄ニ存セス單ニ規定内容ヲ重大ナリトシ公布ノ形式ヲ取リタルモノナラン

外務省告示ヲ以テ公表セラレシ國際約束ト官報彙報欄ニ官廳事項トシテ公表セラレシ國際約束トヲ對照スルニ本質上何等ノ差異モ無ク別表(二)ト(四)トヲ照合スレハ判明スルカ如ク大正十一年頃ヨリ批准條

(赤紙)ト

外務省

37

(赤紙)ト

項ヲ含マサル國際約束ハ外務省告示ヲ以テ公表スルコトナリ其ノ後官報彙報欄ニ國際約束ヲ公表セルノ例ヲ見ス

(註)彙報欄ニ公表セラレシ國際約束ニ付テハ右約束ノ成立シタル旨ヲ外務省告示トシテ同日ノ官報ニ公示セルモノアリ其ノ文意ハ今日外務省告示ヲ以テ暫定取極ヲ發表スル際ニ附スル告示文ト極メテ似タルモノアリ左ニ彙報欄ニ於テ公表セラレシ大正八年日佛通商ニ關スル暫定取極ヲ例ニトレハ
外務告示第十九號

明治四十四年八月十九日調印ノ日佛通商航海條約第五條、第六條、第七條及第十七條並同條約附屬議定書ハ佛國政府ヨリノ通告ニ依リ本年九月九日限り失効スヘキモノトナリ居リタ

外務省

37

B-0034

ル處今般日佛兩國政府間ニ於テ前記日佛通商航海條約ノ諸條及附屬議定書ハ本年九月十日以降之ニ代ルヘキ他ノ協定ノ締結セラルル迄又ハ兩締約國ノ一方ヨリ之カ廢棄ヲ聲明スル迄ノ間三箇月毎ニ暗黙ニ其ノ效力ヲ更新スヘク而シテ右廢棄ノ聲明アリタル場合ニハ次期三箇月ノ期間經過以後其ノ效力ヲ失フヘキ趣旨ノ暫定取極成立シタリ

大正八年九月二十日 外務大臣子爵 内田康哉

第二節 批准ヲ要セサル國際約束ノ樞密院討議ノ時期

本節ニ述フルハ樞密院附議ノ時期ノ問題ニシテ如何ナル性質ノ批准條項ヲ含マサル國際約束カ樞密院付議ヲ必要トスルヤノ問題ニ及ハス之ニ付テハ第三節ニ述ルトコロアルヘシ

今日ニ於テハ批准條項ヲ含マサル國際約束ハ其ノ調印又ハ公文交換前ニ樞密院ニ付議シ御裁可ヲ經ルコト政府樞密院間ノ默契ト爲レリ國際約束ノ樞密院付議カ約束ノ内容ノ審査ニ及フ以上約束未タ確定セシテ樞密院付議ノ結果萬一不裁可トナル場合ニ右約束ヲ不成立ニ終ラシメ得ヘキ時期ニ於テ樞密院ニ付議セラルヘキコト理ノ當然ナリ問題ハ寧ロ批准條項ヲ含マサル國際約束ノ全部ニ付テ樞密院ノ御諮詢ヲ必要トスルヤ否ヤニ在ルカ如シ大正四年十月單獨不講和宣言加入、大正八年三月支那改訂輸入稅率承認、大正十一年十二月日支郵便四約定樞密院付議ノ際ニ於ケル樞密院對政府ノ論争ハ良ク道般ノ事情ヲ明ニセリ

然レトモ外交上時期切迫シテ御諮詢ヲ經ルノ暇ナキ場合ナキニ非ス

殊ニ政治上ノ國際約束ニ付テ時期切迫ノ外、政策上殊更ニ約束ノ成立スル迄之ヲ秘スヘキ理由アル場合ヲモ想像シ得ルトコロ此ノ種國際約束ノ締結ヲ見タルトキハ事後ニ樞密院ニ勅語ヲ賜ハリテ報告スルノ慣例明治三十五年第一回英協約ニ對シ開カレタリ此ノ慣例ニ從ヘルモノ附屬表函ニ示スカ如シ

(註一) 樞密院ニ賜ハリタル勅語ノ例左ノ如シ

明治三十五年第一回日英協約ニ關シ二月十二日樞府ニ對シ賜ハリタル勅語

朕東洋ノ平和ヲ維持シ隘昌ヲ期スルハ清韓兩國ヲシテ克ノ其ノ領土ヲ保全シ其ノ民人ヲ靖セシムルニ至ルヲ思ヒ茲ニ内閣ニ命シテ英國政府ニ協商セシムル所アリシニ英國政府亦恰モ其ノ見

(赤
件
紙)
ト

外
務
省

ヲ齊シクシ今回相互ノ間ニ於テ締約正ニ成レリ其ノ詳細ニ至リテハ總理大臣及外務大臣ヲシテ之ヲ説明セシム

明治四十年日佛協約ニ關シ樞府ニ賜ハリタル勅語

朕佛國ト親交ヲ厚フシ兩國間ニ於ケル將來誤解ノ原因ヲ除去スルハ東洋ノ平和ヲ維持スル所以ナルヲ思ヒ茲ニ内閣ニ命シ佛國政府ト協商セシムル處アリシニ今次相互ノ意見一致シ締約正ニ成レリ其ノ詳細ニ至リテハ總理大臣及外務大臣ヲシテ之ヲ説明セシム

大正六年石井「ランシング」公文交換ニ關シ十一月四日樞密院ニ對シ賜ハリタル勅語

朕支那ニ對スル日米兩國政策ノ協調ヲ圖リ其ノ公正友好ノ誼ヲ

(赤
件
紙)
ト

外
務
省

B-0034

(赤
格
紙)

宣明スルノ緊切ナルヲ認メ朕ノ政府ヲシテ米國政府ト交渉セシ
メ茲ニ兩國政府開ニ之ニ關スル外交文書ヲ交換スルニ至レリ其
ノ詳細ニ至リテハ内閣總理大臣及外務大臣ヲシテ之ヲ説明セシ
ム

(註二) 此ノ種ノ條約ハ調印後樞密院ニ報告セラレタルモ政府ハ
調印前ニ或ハ此ノ種條約ヲ締結スヘキコトヲ上奏シ或ハ條約
案ヲ上覽ニ供シテ御裁可ヲ經居レリ

(註三) 此ノ種條約ニ屬スト認メラルル大正五年第三回日露協約
ハ調印前ニ樞密院ニ御諮詢アリタリ

批准ヲ要セサル國際約東ハ調印又ハ公文交換前ニ樞密院ニ付議セラ
ルヘキモノナルコト前述ノ如クナレトモ明治四十四年日佛通商ニ關

外
務
省

(赤
格
紙)

スル暫定協約明治四十四年日佛通商ニ關スル暫定協約延期ノ協約ハ
何レモ調印後樞密院ニ付議セラレ樞密院ニ於テ何等問題ト爲ラザリ
キ(尤モ兩條約ノ公布ノ形式ハ批准條項アル條約ノ公布ノ形式ト全
ク同一ナリシコト第一節ニ述ベタルガ如シ)

日佛通商ニ關スル暫定協約
明治四十四年八月十九日巴里ニ於テ調印

同 年同月二十六日樞密院へ御諮詢
同 年同月二十六日公布

日佛通商ニ關スル暫定協約延期ノ協約
明治四十四年十二月十九日巴里ニ於テ調印

同 年同月二十三日樞密院へ御諮詢
同 年同月二十八日公布

外
務
省

B-0034



第三節 樞密院ニ諮詢スヘキ國際約束ノ範圍

樞密院官制第六條第四號ニハ列國交渉ノ條約及約束ハ同院ニ諮詢スヘシト規定シ一見樞密院ニ諮詢スヘキ條約及約束ノ範圍ニハ何等ノ制限存セサルカ如シト雖實際上右ノ規定ハ事ノ輕重如何ヲ問ハス一切ノ條約及約束ヲ樞密院ニ諮詢スヘシトノ意ニハ非スシテ國際約束中重要ナルモノノミヲ諮詢スヘシトノ意ト解スヘキモノナルハ(一)樞密院カ重要ナル國務ヲ諮詢セラルル處ナルニ徴ヒ(二)國際事務ノ簡捷ヲ計ル上ヨリ(三)外國ニ於ケル國際約束ニ對スル議會ノ協贊權ノ關係ニ照シ明瞭且當然ナリト云ハサルヘカラス
然レトモ官制ノ規定カ列國交渉ノ條約及約束ト廣ク規定シ居レルト國際約束ニ付重要ナルモノト然ラサルモノトヲ區別スヘキ一般標準

(赤 梓 紙)ト

外 務 省

決定シ居ラサルカ爲從來此ノ點ニ付樞密院ト政府トノ間ニ屢々意見ノ衝突ヲ見タリ今日迄樞密院ニ諮詢セラレサリシ國際約束ヲ年代順ニ示セハ左ノ如シ

(赤 梓 紙)ト

- 新奉吉長鐵道協約 明治四十年四月十五日調印
- 大連海關設置ニ關スル協定及內水汽船航行ニ關スル協定 明治四十年五月三十日調印
- 滿洲ニ於ケル鐵道接續業務ニ關スル日露假條約 明治四十年六月十三日調印
- 同上追加條款 明治四十年六月十三日調印
- 同上附屬議定書 明治四十年六月十三日調印
- 領事館ニ關スル日露議定書 明治四十年七月二十八日調印
- 最惠國待遇ニ關スル日露交換公文 明治四十年七月二十八日交換

外 務 省

B-0034

(赤梓紙)ト

樺太島日露境界確定事業承認ニ關スル交換公文
 明治四十一年八月六日交換

鴨綠江採木公司ニ關スル日清協定
 明治四十一年五月十四日調印

同公司業務章程
 明治四十一年九月十一日調印

同章程ニ關スル覺書
 明治四十一年九月十一日調印

新奉吉長鐵道續約
 明治四十一年十一月十二日調印

國際阿片會議決議
 明治四十二年二月二十六日調印

在韓外國人ニ對スル警察事務ニ關スル日韓協定
 明治四十二年三月十五日調印

仁川釜山及元山清國居留地規定
 明治四十三年三月十一日調印

日露原產地證明手啟料相互免除ニ關スル交換公文
 明治四十三年一月十三日交換

外務省

37

(赤梓紙)ト

警察事務委託ニ關スル日韓覺書
 明治四十三年六月二十四日調印

日本瑞西通商暫定取極
 明治四十四年六月二十一日交換

日蘭通商暫定取極
 明治四十四年六月二十八日交換

日丁通商暫定取極
 六月三十日
 七月三日交換

日獨領事ノ職務ニ關スル暫定協定取極
 明治四十四年七月七日調印

日加通商暫定取極
 明治四十四年七月七日交換

日白通商暫定取極
 明治四十四年七月八日交換

日伊通商暫定取極
 明治四十四年七月十二日交換

日埃通商暫定取極
 明治四十四年八月三日交換

國境列車直通運輸ニ關スル日支協約
 明治四十四年十一月二日調印

外務省

37

B-0034

0218

(赤梓紙)

日蘭船舶積量證書互認ニ關スル交換公文

明治四十五年 二月十二日 交換
三月十八日

日英原產地證明手数料相互免除ニ關スル交換公文

大正元年十月 二十六日 交換
三十一日

英領加奈陀ノ日英通商航海條約加入ニ關スル交換公文

大正二年 三月七日 交換
三月五日

在朝鮮各國居留地廢止ニ關スル議定書

大正二年四月二十一日調印

鮮滿國境通過鐵道貨物關稅輕減取極

大正二年五月二十九日調印

日佛原產地證明手数料相互免除ニ關スル交換公文

大正二年十月四日交換

外務省

(赤梓紙)

在朝鮮支那共和國居留地廢止ニ關スル協定

大正二年十一月二十二日調印

青島支那稅關再開取極

大正四年八月六日調印

日墨醫術自由開業ニ關スル協定

大正六年四月二十六日調印

「チエコスロヴァキア」民族ニ對スル帝國ノ態度宣明ニ關スル交換公文

大正七年 八月十一日 交換
九月九日

日獨混合仲裁裁判所ノ手續準則

大正九年十一月十二日作成

日奧仲裁裁判所手續準則

大正十年七月八日作成

日英船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル標示互認ニ關スル交換公文

大正十年 十一月三日 交換
十一月十二日

外務省

37

37

B-0034

0219

(赤梓紙)ト

日蘭船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル標示互認ニ關スル交換公文
大正十年十一月十二日交換

日白船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル標示互認ニ關スル交換公文
大正十一年一月三十日交換

日佛船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル標示互認ニ關スル交換公文
大正十一年三月十四日交換

日本國本土ト英領海峽殖民地間ノ滿載吃水線證書及之ニ相當スル標示互認ニ關スル交換公文
大正十一年三月十五日交換

日丁船舶積量測度證書互認ニ關スル交換公文
大正十一年五月十七日交換

日獨船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル標示互認ニ關スル交換公文
大正十一年六月七日交換

六月八日交換

日支山東懸案細目協定
大正十一年十二月一日調印

外務省

(赤梓紙)ト

日支山東懸案鐵道細目協定
大正十一年十二月五日調印

右ニ依レハ從來現行國法ニ對シ變更ヲ加フルコトナキ通商航海條約ニ關スル暫行取扱、原產地證明手数料相互免除ニ關スル交換公文、船舶積量測度證書互認ニ關スル交換公文等ハ原則トシテ樞密院ニ諮詢セラレサリシカ如シ殊ニ船舶積量測度證書互認ニ關シテハ將來樞密院ニ對スル手續ヲ經サルコトニ付大正十四年十二月省議決定ヲ見タリ

(註) 右省議決定ニ付テハ附屬高裁案寫參照

其ノ他條約ノ委任アル場合、條約ノ實施ニ關スル場合、行政上ノ專門的又ハ技術的事項ニ關スル場合等モ亦樞密院ニ付議セラレサリシカ如シ

外務省

B-0034

0220

(赤作紙)ト

東ニ付テハ事後報告ノ形式存シタルカ如シ
此ノ形式ニ從ヘルモノ左表ニ示スカ如シ

家屋税問題仲裁裁判ニ關スル議定書

明治三十五年八月二十八日調印

日韓秘密條約

明治三十七年二月二十三日調印

通信機關委託ニ關スル日韓取極書

明治三十八年四月一日調印

司法及監獄事務委託ニ關スル日韓覺書

明治四十二年七月十二日調印

間島ニ關スル日清協約及滿洲五案件ニ關スル日清協約

明治四十二年九月四日調印

警察事務委託ニ關スル日韓覺書

明治四十三年六月二十四日調印

外務省

(赤作紙)ト

單獨不講和宣言加入

大正四年十月十九日加入

尤モ單純ナル事後報告ナル形式ハ「重要ナルモノ」ト「重要ナラサルモノ」トノ「中間ノモノ」ニ對スル形式トシテ存在シタルニ非スシテ前記諸條約モ事情急ヲ要シ又ハ政策上秘密ヲ守ル必要アリテ御諮詢ナカリシモノニシテ本來ナラハ勅語ヲ賜ヒテ樞密院ニ報告セラレヘキモノナルモ其ノ意義稍々輕キカ故ニ勅語ヲ賜ハラスシテ報告セラレタルニハ非スヤトノ疑モアリ大正四年單獨不講和宣言加入カ大正四年十一月三日樞密院ニ報告セラレタルトキ伊東顧問官ハ「抑モ國際上ノ條約及約束ハ樞密院ニ御諮詢アルヘキコト本院官制第六條第四號ノ明定スル所タリ尤モ至急ヲ要シタリト云フ場合ニ於テ御諮詢ナカリシ事モアリタレトモ其ノ場合ニハ特ニ勅語ノ本院ニ下リ

外務省

B-0034

0222

タルアリ且總理大臣ヨリ陳辯スル所アリタリ」ト述へ大隈總理大臣
ハ「樞密院ノ權限ハ內閣ニ於テ尊重ス然レ共本件ハ日英協約第二條
ニテ既定ノ事項ヲ文書ノ交換ニ依リテ明ニシタル次第ナリ故ニ本件
ハ報告スルヲ以テ可ナリト信ス」ト答ヘタリ然レトモ本件ニ關シ大
隈內閣カ樞密院ニ對シテ「、、、、倫敦宣言加入ノ件ノ如キハ
其ノ内容ニ於テ重要ノ國務ニ屬シ又文書交換前御諮詢ヲ經ルノ時日
無カリシニモ非ス然ルニ內閣ニ於テ御諮詢奏請ノ手續ヲ履マサリシ
ハ今ニ至テ遺憾トスル所ナリ」ト陳謝シタル後國際約束ニシテ此ノ
形式ニテ樞密院ニ報告セラレタルモノナシ

(附 屬)

大正十四年十一月三十日起草

外務省

(赤 印 紙)ト

同 年十二月 三日決裁

高 裁 案

帝國政府ハ從來左記ノ通各國ト船舶検査互認及船舶積量測度互認並
船舶滿載吃水線互認ニ關シ取極ヲ爲スニ當リテ何等樞密院ニ對スル
手續ヲ經サリシカ今後モ尙此種取極ヲ各國ト締結スルノ必要隨時發
生スヘキニツキ其場合ハ從來ノ先例ニ倣ヒ樞密院ニ對スル手續ヲ經
サルコトト致度右仰高裁

(赤 印 紙)ト

外務省

B-0034

0223

記

船舶検査互認取極

- (イ) 日米間船舶検査互認取極 (明治三十九年五月、公文交換)
- (ロ) 日英間 同 (明治四十三年三月、同)

船舶積量測度互認取極

- (イ) 日蘭間船舶積量測度互認取極 (明治四十五年三月、公文交換)
- (ロ) 日露間 同 (明治四十三年一月、同)
- (ハ) 日丁間 同 (明治二十四年三月、同)
- (ニ) 日瑞諾間同 (明治二十七年五月、同)
- (ホ) 日獨間 同 (明治三十三年九月、同)
- (ヘ) 日丁間 同 (大正十一年五月、同)

(赤印紙)

外務省

4.3

- (ト) 日英間 同 (大正十一年十一月、同)

船舶滿載吃水線證書互認取極

- (イ) 日蘭間船舶滿載吃水線互認取極 (大正十年十一月、公文交換)
- (ロ) 日英間船舶滿載吃水線暫定互認取極 (大正十年十二月、同)
- (ハ) 日白間船舶滿載吃水線互認取極 (大正十一年一月、同)
- (ニ) 日佛間船舶滿載吃水線暫定互認取極 (大正十一年三月、同)
- (ホ) 日本英領海峽殖民地間船舶滿載吃水線暫定互認取極 (大正十一年三月、同)
- (ヘ) 日英間船舶滿載吃水線互認取極 (大正十三年一月、同)

(赤印紙)

外務省

4.3

B-0034

0224

附屬表

- (一) 批准條項ヲ含マサル國際約束ニシテ裁可公布セラレシモノ
- (二) 外務省告示ヲ以テ公示セラレン國際約束
- (三) 外務省告示以外ノ告示ヲ以テ公示セラレシ國際約束
- (四) 彙報欄(官廳事項)ニ公示セラレシ國際約束
- (五) 樞密院ニ勅語ヲ賜ハリテ之ニ報告セラレタル國際約束

外務省

(赤
印
紙)
イ

附屬表 (一)

批准條項ヲ含マサル國際約束ニシテ裁可公布セラレシモノ
亞米利加合衆國

日本帝國及亞米利加合衆國間小包郵便條約

右條約ノ修正條約

右條約ノ修正條約

- 明治三十七年六月三十日華盛頓ニ於テ署名
- 同 三十七年七月十七日公布
- 明治四十二年三月二日華盛頓ニ於テ署名
- 同 四十二年六月十八日東京ニ於テ署名
- 同 四十二年七月二十八日公布
- 大正元年十月十日華盛頓ニ於テ署名
- 同 二年五月五日東京ニ於テ署名
- 同 二年五月十六日 公布

外務省

B-0034

0225

日本帝國及比律賓群島間郵便爲替
交換約定

大正九年九月十七日東京ニ於
テ署名
同 十年一月三日「マニラ」
ニ於テ署名
同 十年二月十九日 公布

日本帝國及比律賓群島間郵便爲替
交換約定施行細則

大正九年九月十九日東京ニ於
テ署名
同 十年一月三日「マニラ」
ニ於テ署名
同 十年二月十九日 公布

大不列顛國

日本香港間郵便爲替方法規約

明治十七年三月十五日香港ニ
於テ署名
同 年四月十八日東京ニ於テ
署名
同 年四月二十四日 公布

日本帝國遞信省ト加那陀國郵政廳
トノ間ニ取結ヒタル郵便爲替規約

明治二十二年五月十六日東京
ニ於テ署名
同 年六月二十七日「オタワ」

外務省

日本帝國郵政廳及濠洲聯邦郵政廳
間小包郵便物交換ニ關スル約定

ニ於テ調印
同 年九月三十日 公布
明治三十九年四月二十四日「メ
ルボルン」ニ於テ署名
同 年十月二十九日東京ニ於
テ署名
同 年十一月八日 公布

日本帝國遞信省並大不列顛及愛爾
聯合王國郵政廳間ニ締結セル小包
郵便物交換ニ關スル約定

明治四十年一月三十一日倫敦
ニ於テ署名
同 年七月十九日東京ニ於テ
署名
同 年八月三日 公布

日本帝國遞信省及香港郵政廳間ニ
締結セル小包郵便物交換ニ關スル
約定

明治四十年七月十九日東京ニ
於テ署名
同 年八月一日香港ニ於テ署名
同 年四月二十九日 公布

日本遞信省並大不列顛及愛爾聯合
王國郵政廳間郵便爲替業務約定

明治四十一年十一月四日倫敦
ニ於テ署名
同 年十二月七日東京ニ於テ
署名

外務省

B-0034

0226

明治四十年七月十九日東京ニ於テ
及千九百七年一月三十一日倫敦ニ
於テ署名セラレタル日本帝國遞信
省並大不列顛及愛爾蘭聯合王國郵政
廳間小包郵便約定ヲ修正スル追加
條款

同 年 同 月 二 十 二 日 公 布
明 治 四 十 一 年 九 月 三 日 倫 敦 ニ
於 テ 署 名
同 年 十 二 月 二 十 三 日 東 京 ニ
於 テ 署 名
同 四 十 二 年 一 月 二 十 日 公 布

日本帝國遞信省及海峽殖民地郵政
廳間ニ締結セル小包郵便物交換ニ
關スル約定

明 治 四 十 一 年 七 月 十 一 日 東 京
ニ 於 テ 署 名
同 四 十 二 年 五 月 二 十 日 新 嘉
坡 ニ 於 テ 署 名
同 年 七 月 九 日 公 布
大 正 二 年 二 月 六 日 倫 敦 ニ 於 テ
署 名
同 年 三 月 六 日 東 京 ニ 於 テ 署 名
同 年 同 月 十 七 日 公 布
大 正 二 年 六 月 二 十 七 日 東 京 ニ
於 テ 署 名
同 三 年 三 月 十 三 日 「オタワ」

外 務 省

(赤 紙)

明治四十年七月十九日東京ニ於テ
及千九百七年一月三十一日倫敦ニ
於テ署名セラレタル日本帝國遞信
省並大不列顛及愛爾蘭聯合王國郵政
廳間小包郵便約定ヲ修正スル追加
條款

ニ 於 テ 署 名
同 年 八 月 二 十 四 日 公 布
大 正 十 一 年 十 二 月 五 日 倫 敦 ニ
於 テ 署 名
同 十 二 年 五 月 二 十 九 日 東 京
ニ 於 テ 署 名
同 十 二 年 六 月 二 十 一 日 裁 可
同 十 二 年 同 月 同 日 公 布
大 正 十 三 年 一 月 十 四 日 新 嘉 坡
ニ 於 テ 署 名
同 年 七 月 十 六 日 東 京 ニ 於 テ
署 名
同 年 同 月 二 十 九 日 公 布
明 治 四 十 三 年 二 月 二 十 八 日 「メ
キシコ」ニ 於 テ 署 名
同 年 四 月 十 一 日 東 京 ニ 於 テ
署 名
同 年 六 月 十 八 日 公 布

外 務 省

43

43

B-0034

0227

日本帝國遞信省及墨西哥合衆國遞信工部省間ニ締結セル小包郵便物交換條約

明治四十三年四月二十五日東京ニ於テ署名
同年五月二十四日「メキシコ」ニ於テ署名
同年六月十七日 公布

日本帝國遞信省及墨西哥合衆國遞信工部省間ニ締結セル小包郵便物交換條約ノ施行規則

明治四十三年四月二十五日東京ニ於テ署名
同年五月二十四日「メキシコ」ニ於テ署名
同年六月二十三日 公布

佛 蘭 西

通商關係ニ關スル暫定協約

明治四十四年八月十九日巴里ニ於テ調印
同年同月二十六日 公布

通商關係ニ關スル千九百十一年八月十九日ノ暫定協約延期ノ協約

明治四十四年十二月十九日巴里ニ於テ調印
同年同月二十八日 公布

外 務 省

露 西 亞

日本帝國及露西亞帝國間郵便爲替交換約定

明治四十三年二月二十八日聖彼得堡ニ於テ署名
同年四月二十六日 公布

日露會社互認ニ關スル協約

明治四十四年六月二十三日東京ニ於テ調印
同年同月三十日 公布

日露鐵道及汽船貨物直通運輸ニ關スル協約

明治四十四年八月十四日聖彼得堡ニ於テ調印
同年同月十八日 公布

外 務 省

B-0034

0228

附屬表(二)

外務省告示ヲ以テ公示セラレン國際約束

亞米利加

「ヤツブ」島及他ノ赤道以北ノ大正十一年二月十一日華盛頓ニ於テ
大平洋委任統治諸島ニ關スル日同 年七月十三日 告示

米條約附屬交換公文

石井「ランシング」交換公文廢大正十二年四月十四日華盛頓ニ於テ
棄ニ關スル日米交換公文 同 年四月十四日 告示

埃地利

混合仲裁裁判所手續準則

大正十年七月八日 作成
大正十年十月十一日 告示

通商ニ關スル暫定取極

大正十二年十月二日雜納ニ於テ
同 年十月九日 告示

外務省

通商ニ關スル追加協定

大正十四年十月三日雜納ニ於テ
同 年十月六日 告示

白耳義

船舶滿載吃水線證書及之ニ相當大正十一年一月卅日東京ニ於テ
スル標示互認ニ關スル交換公文同 年二月一日 告示

丁抹

船舶積量測定證書互認ニ關スル大正十一年五月十七日東京ニ於テ
交換公文同 年同月廿二日 告示
同 年同月廿六日 告示

「ダンチツヒ」自由市

日本國「ポーランド」國間通商昭和二年四月十一日「ワルソー」ニ於テ
航海條約ノ效力ヲ「ダンチツヒ」同 年同月十六日 告示
自由市ノ領域ニ擴張スル件ニ關スル交換公文

外務省

B-0034

0229

佛蘭西共和國

原產地證明手數料相互免除ニ關スル交換公文 大正二年十月四日東京ニ於テ 告示

摩洛哥國佛領地帶ニ於テ領事裁判權ヲ撤廢シ日佛間ニ存スル條約ヲ適用スル件ニ關スル宣言 大正四年七月十四日東京ニ於テ調印 告示

船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル標示互認ニ關スル交換公文 大正十一年三月十四日巴里ニ於テ 告示

獨逸國

混合仲裁裁判所手續準則 大正九年十一月十二日 作成 告示

船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル標示互認ニ關スル交換公文 大正十一年六月七日 伯林ニ於テ 告示

大不列顛

外務省

(赤紙)

日英船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル標示互認ニ關スル交換公文 大正十年十一月三日 倫敦ニ於テ 告示

日本國本土ト英領海峽殖民地間ノ滿載吃水線證書及之ニ相當スル標示互認ニ關スル交換公文 大正十一年三月十五日 倫敦ニ於テ 告示

通商航海條約第八條並同條約附屬稅表廢棄ニ關スル交換公文 大正十三年七月十四日倫敦ニ於テ 告示

希臘國

修好通商航海條約有效期間ノ延長ニ關スル暫定取極 大正十三年十二月九日 「アテーン」ニ於テ 告示

同第二回暫定取極 大正十四年二月二十日 「アテーン」ニ於テ 告示

外務省

B-0034

0230

同條約ノ有効期間ヲ新條約實施ニ至ル迄延長スル暫定取極
 同 大正十四年五月八日「アテレス」ニ於テ
 同 年五月卅日 告示
 同 年六月三日 告示
 和蘭國船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル標示互認ニ關スル交換公文
 同 大正十年十一月十二日東京ニ於テ
 同 十一年二月一日 告示

秘露共和國

通商航海條約有効期間延長ニ關スル暫定取極
 同 大正十二年十一月二日「リマ」ニ於テ
 同 年同月廿一日 告示
 同再延長ニ關スル交換公文
 同 大正十三年一月十八日「リマ」ニ於テ
 同 年同月廿五日 告示
 同第三回延長ニ關スル交換公文
 同 大正十三年三月廿九日「リマ」ニ於テ
 同 年四月七日 告示
 同第四回延長ニ關スル交換公文
 同 大正十三年十二月廿六日「リマ」ニ於テ
 同 大正十四年一月十五日 告示

外務省

(赤 標 紙) 4

西班牙國

修好交通條約ノ實施及有効期間ニ關スル議定書
 同 明治四十四年八月二十九日「サン、セバステイアン」ニ於テ調印
 同 大正四年七月十一日 告示
 修好交通條約第九條及第十二條ノ適用ニ關スル宣言書
 同 大正二年五月十二日馬德里ニ於テ調印
 同 四年七月十一日 告示
 特別通商條約效力期間延長ニ關スル交換公文
 同 大正十二年十一月三日馬德里ニ於テ
 同 年十二月廿一日 告示
 同 年同月廿三日 告示
 同條約有効期間第二回延長ニ關スル交換公文
 同 大正十三年四月廿九日馬德里ニ於テ
 同 年六月二日 告示
 同 年同月九日 告示
 同條約有効期間第三回延長ニ關スル交換公文
 同 大正十四年四月十日馬德里ニ於テ
 同 年五月四日 告示
 同 年五月六日 告示

外務省

4.3

4.3

B-0034

023

同條約有效期間第四回延長ニ關大正十四年十一月五日馬德里ニ於テ
 スル交換公文 年同 月九日 告示

(赤 紙)

外務省

附屬表(三)

外務省告示以外ノ告示ヲ以テ公示セラレシ國際約東
 亞米利加合衆國

流動物及流動體ニ變シ易キ物品、
 脂肪質ノ物品並染粉及其ノ他ノ粉
 狀物ヲ日本帝國及亞米利加合衆國
 間現行小包郵便條約ニ依リ交換ス
 ル小包郵便物トシテ差出スコトヲ
 得セシムルノ目的ヲ以テ兩國郵政
 廳間ニ爲セル協定

大正八年五月十日華盛頓ニ於
 テ署名
 同 年六月二十八日東京ニ
 於テ署名
 同 年六月三十日告示(遞
 信省)

大不列顛國

日本帝國遞信省及濠洲郵政廳間ニ
 締結セル小包郵便物交換ニ關スル
 約定ノ施行細則

明治卅九年十月九日「メルボ
 ルン」ニ於テ署名
 同 年十二月十四日東京
 ニ於テ署名
 同 年同月十九日告示(遞

外務省

B-0034

0232

日本帝國遞信省並大不列顛及愛蘭聯合王國郵政廳間ニ締結セル小包郵便物交換ニ關スル約定ノ施行細則

信省)

明治四十年一月三十一日倫敦ニ於テ署名

同 年七月十九日東京ニ於テ署名

同 年八月十九日告示(遞信省)

日本帝國遞信省及香港郵政廳間ニ締結セル小包郵便物交換ニ關スル約定ノ施行細則

明治四十年七月十九日東京ニ於テ署名

同 年八月一日香港ニ於テ署名

同 年九月二日告示(遞信省)

明治四十年七月十九日東京ニ於テ及千九百零七年一月三十一日倫敦ニ於テ署名セラレタル日本帝國遞信省並大不列顛及愛蘭聯合王國郵政廳間ニ締結セル小包郵便物交換ニ

明治四十一年九月三日倫敦ニ於テ署名

同 年十二月二十三日東京ニ於テ署名

外務省

關スル約定ノ施行細則ヲ修正スル追加條款

同 四十二年一月二十日告示(遞信省)

日本帝國遞信省及海峽殖民地郵政廳間ニ締結セル小包郵便物交換ニ關スル約定ノ施行細則

明治四十一年七月十一日東京ニ於テ署名

同 四十二年五月二十日新嘉坡ニ於テ署名

同 年七月十日告示(遞信省)

日本帝國遞信省及英領加奈陀郵政廳間ニ締結セル小包郵便物交換ニ關スル約定ノ施行細則

大正二年六月二十七日東京ニ於テ署名

同 三年三月十三日「オタワ」ニ於テ署名

同 年八月二十五日告示(遞信省)

明治四十一年七月十一日東京ニ於テ及千九百零九年五月二十日新嘉坡ニ於テ署名セラレタル日本帝國遞信省及海峽殖民地郵政廳間ニ締結

大正十三年五月五日新嘉坡ニ於テ署名

同 年七月十八日東京ニ於テ署名

外務省

B-0034

0233

セル小包郵便物交換ニ關スル約定
ノ施行細則ヲ修正スル追加條款

露 西 亞

千九百十二年十二月十八日 日本帝
千九百十年二月二十八日
國及露西亞帝國間ニ締結セル郵便
爲替交換約定ノ施行細則

同 年同月二十五日告示
(遞信省)

明治四十三年二月二十八日聖
彼得斯堡ニ於テ署名
大正元年十二月十八日東京ニ
於テ署名
同 二年四月二十六日告示(遞
信省)

外 務 省

附屬表(四)

彙報欄(官廳事項)ニ公示セラレ國際約束

亞 米 利 加

太平洋方面ニ關スル交換公文

明治四十一年十一月三十日華

盛頓ニ於テ
同 年十二月二日彙報

亞米利加合衆國行勞働者ノ制限及

明治四十四年二月二十一日華

取締ニ關スル宣言

盛頓ニ於テ
同 年四月四日彙報

通商航海條約中及議定書中ノ修正
並該條約ノ解釋ニ關スル交換公文

明治四十四年二月二十五日華
盛頓ニ於テ
同 年四月四日彙報

支那ニ關スル交換公文

大正六年十一月二日華盛頓ニ
於テ
同 年同月七日彙報

外 務 省

B-0034

埃地利

通商ニ關スル第一回暫定取極

明治四十四年八月三日維納ニ於テ調印

同 第二回暫定取極

明治四十四年十二月二十二日維納ニ於テ調印

同 第三回暫定取極

明治四十五年六月二十七日維納ニ於テ調印

同 第四回暫定取極

大正元年十二月二十日維納ニ於テ調印

白耳義

白耳義國ニ於テ公果獨立國合併ニ關スル交換公文

明治四十一年十一月十二日同 年同月二十日東京ニ於テ同 年同月二十一日彙報

外務省

(赤紙)

通商ニ關スル暫定取極

明治四十四年七月八日比律悉ニ於テ同 年同月十五日彙報

「チエツコスロヴァキア」

「チエツコスロヴァキア」民族ニ對スル帝國ノ態度宣明ニ關スル交換公文

大正七年八月十一日巴里ニ於テ同 年九月九日倫敦ニ於テ同 年同月十七日彙報

丁抹

通商ニ關スル暫定取極

明治四十四年六月三十日「コペンハーゲン」ニ於テ同 年七月三日海牙ニ於テ同 年同月十五日彙報

佛蘭西

明治四十年協約

明治四十年六月十日巴里ニ於テ調印同 年同月十七日彙報

外務省

B-0034

0235

印度支那ニ關スル宣言書

明治四十年六月十日巴里ニ於テ調印

同

同 年同月十七日彙報

清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル條約批准交換覺書

明治四十四年八月十九日巴里ニ於テ調印

通商航海條約ニ仰國殖民地加入ニ關スル交換公文

同 年同月二十日彙報

通商ニ關スル暫定取極

明治四十四年八月十九日巴里ニ於テ

通商ニ關スル暫定取極

明治四十五年二月二十二日彙報

通商ニ關スル暫定取極

大正八年九月十九日東京ニ於テ

獨逸國

同 年九月二十日彙報

外務省

日獨新條約談判中ノ合意

明治四十四年七月十五日彙報

大不列顛

日加通商關係ニ關スル暫定取極

明治四十四年七月七日倫敦ニ於テ

原產地證明手数料相互免除ニ關スル交換公文

同 年同月十五日彙報

英領加奈陀行勞働者ノ制限及取締ニ關スル宣言

大正元年十月二十六日東京ニ於テ

英領加奈陀ノ日英通商條約加入ニ關スル日加間交換公文

同 年十一月四日彙報

英領加奈陀ノ日英通商條約加入ニ關スル日加間交換公文

大正二年四月十一日「オタワ」ニ於テ

英領加奈陀ノ日英通商條約加入ニ關スル日加間交換公文

同 年五月六日彙報

英領加奈陀ノ日英通商條約加入ニ關スル日加間交換公文

同 年三月一日「オタワ」ニ於テ

英領加奈陀ノ日英通商條約加入ニ關スル日加間交換公文

同 年三月五日

英領加奈陀ノ日英通商條約加入ニ關スル日加間交換公文

同 年五月六日彙報

外務省

B-0034

0236

修好通商航海條約效力存續ニ關スル暫定取極

大正九年三月十九日東京ニ於テ
同年五月一日
同年同月三日彙報

和 蘭 國

通商ニ關スル暫定取極

明治四十四年六月二十八日海
牙ニ於テ
同年七月十五日彙報

船舶積量證書互認ニ關スル交換公文

明治四十五年二月十二日
同年三月十八日東京ニ於テ
同年六月十五日彙報

伊 太 利

通商ニ關スル暫定取極

明治四十四年七月十二日羅馬
ニ於テ
同年同月十五日彙報

同

大正六年十二月二十八日羅馬
ニ於テ
同七年一月四日彙報

外 務 省

通商ニ關スル暫定取極

大正七年十二月十六日
同年同月二十五日東京ニ於テ
同年同月二十七日彙報

同

大正八年八月三十日羅馬ニ於テ
同年九月二十五日
同年十月二日彙報

墨 西 哥 合 衆 國

醫術自由開業ニ關スル協定

大正六年四月二十六日墨西哥
市ニ於テ調印
同年五月八日彙報

「パラグアイ」國

人種的區別ニ關スル交換公文

大正九年十一月二十九日
同年同月三十日「アスンシ
オン」ニ於テ
同十年八月三十日彙報

外 務 省

B-0034

露 西 亞 國

領事館ニ關スル議定書

明治四十年七月二十八日聖彼得堡ニ於テ調印
同年九月十一日彙報

最惠國待遇ニ關スル交換公文

明治四十年七月二十八日聖彼得堡ニ於テ調印
同年九月十一日彙報

滿洲撤兵手續及鐵道線路引渡順序議定書

明治三十八年十月三十日四平街ニ於テ調印
同年十一月二十四日彙報

滿洲ニ於ケル鐵道接續業務假條約

明治四十年六月十三日聖彼得堡ニ於テ調印
同年八月三日彙報

同上追加條款

明治四十年六月十三日聖彼得堡ニ於テ調印
同年八月三日彙報

日露第一回協約

明治四十年七月三十日聖彼得堡ニ於テ調印

(赤 松 紙) 1

外 務 省

4.3

日露第二回協約

同 年八月十五日彙報

明治四十三年七月四日聖彼得堡ニ於テ調印

同 年同月十三日彙報

樺太島日露境界劃定事業承認ニ關スル交換公文

明治四十一年八月六日東京ニ於テ
同 年九月十日彙報

原產地證明手續料相互免除ニ關スル交換公文

明治四十三年一月十三日東京ニ於テ
同 年同月十五日彙報

船舶積量測定證書互認ニ關スル交換公文

明治四十三年二月四日東京ニ於テ
同 年三月一日彙報

漁業條約ニ關スル兩國全權委員ノ宣言書

明治四十四年六月十八日聖彼得堡ニ於テ
同 年九月十一日彙報

大正五年協約

大正五年七月三日「ペトログランド」ニ於テ調印
同年同月八日彙報

(赤 松 紙) 1

外 務 省

4.3

B-0034

0238

瑞典國

通商航海條約及特別相互關稅條約
調印始末書

明治四十四年五月十九日「ス
トックホルム」ニ於テ調印
同年七月十三日彙報

瑞西國

通商ニ關スル暫定取極

明治四十四年六月二十一日「ベ
ルヌ」ニ於テ
同年七月十五日彙報

外務省

附屬表(五)

樞密院ニ勅語ヲ賜ハリテ之ニ報告セラレタル國際約束

第一回日英協約

明治三十五年一月三十日倫敦ニ於テ調印
同年二月十二日樞密院ニ賜勅報告
同年同日彙報

第二回日英協約

明治三十八年八月十二日倫敦ニ於テ調印
同年九月二十六日樞密院ニ賜勅報告
同年九月二十七日彙報

第三回日英協約

明治四十四年七月十三日倫敦ニ於テ調印
同年七月十五日樞密院ニ賜勅報告
同年同日彙報

日佛協約

明治四十年六月十日巴里ニ於テ調印
調印後樞密院ニ賜勅報告(日付不明)
同年六月十七日彙報

外務省

B-0034

0239

大平洋方面ニ關スル日米交換公文	明治四十一年十一月三十日華盛頓ニ於テ 同 年十二月二日樞密院ニ賜勅報告 同 年同月同日彙報
支那ニ關スル日米交換公文	大正六年十一月二日華盛頓ニ於テ 同 年同月四日樞密院ニ賜勅報告 同 年同月七日彙報
日露第一回協約	明治四十年七月三十日聖彼得堡ニ於テ調印 同 年八月十三日樞密院ニ賜勅報告 同 年八月十五日彙報
日露第二回協約	明治四十三年七月四日聖彼得堡ニ於テ調印 同 年七月七日樞密院ニ賜勅報告 同 年同月十三日彙報
日支軍事協定	大正七年三月二十五日公文交換 同 年五月二十八日樞密院ニ賜勅報告 同 年五月三十一日官報公布

外務省

(赤印紙)

B-0034



賠償問題倫敦條約ニ關スル件

(本條約ヲ以テ平和條約ノ委任條項ノ範圍内ニ於テ締結セラレタリトシテ樞密院諮詢ノ手續ヲトラサリシモノ)

(大正十三年八月作成)

十三年八月二十一日午前山川條約局長樞密院事務所ニ於テ一木副議長及二上翰長ニ會見シ賠償問題ノ經過及倫敦會議ノ結果等ヲ詳細ニ説明シ帝國ニ取り其内容餘リ重大ナラサルコト及倫敦諸約定ハ對獨平和條約ノ委任條項ノ範圍内ニ於テ締結セラレタルモノナルヲ以テ御裁可及樞密院附議ノ手續ヲ要セサルモノト認ムルコトヲ述ヘテ其了解ヲ求メタリ一木副議長ハ本件カ平和條約ノ委任規定ノ範圍内ニ至ルコトハ疑ナシ但シ右委任條項ニ依リ政府ニ於テ約定ヲ爲スニ當リ尙御裁可等ノ手續ヲ要スヘントノ議論ハ或ハ起リ得ヘシ尙考慮ノ

外務省

5

上回答スヘント答ヘタリ一木副議長ノ口吻ハ大體ニ於テ異議ナキカ如ク見受ケラレタリ

越ヘテ八月二十七日倫敦諸約定ニ直チニ調印スヘキ旨ノ閣議決定案ニ付持回ニテ各大臣ノ署名ヲ求メツツアルニ際シ一方幣原外相ハ八月二十八日午前一木副議長ヲ訪問シテ其所見ヲ訊サレタルニ同副議長ハ自分トシテハ本件ハ平和條約ノ委任規定ニ基クモノナレハ政府ニ於テ直ニ調印ヲ命セラルルコトニ異議ナシ此ノ點ハ或ハ議論起ルヘケレトモ他ノ顧問官ニ於テモ恐ラクハ問題ト爲スコトナカルヘシト答ヘタリ

斯クテ十一月二十八日閣議決定ヲ經テ直ニ調印スヘキ旨副電ヲ發セ

外務省

B-0034

新大蔵大臣協定ニ關スル件

(本協定ヲ以テ既存條約ノ條項ヲ實施スル爲ノ規定ニ過キストシテ樞密院諮詢ノ手續ヲ取ラサリシモノ)

(大正十四年三月作成)

第一、「ヴェルサイユ」條約ノ規定

巴里講和會議ノ當時賠償問題ニ關シ具體的ニシテ且詳細ナル規定ヲ爲スコト不可能ナリシ爲賠償總額ノ決定及支拂計畫ノ決定ハ之ヲ賠償委員會ニ又分配ニ關スル決定ハ同盟及聯合國政府ニ之ヲ委任セリ而シテ一旦賠償總額及支拂計畫ノ決定シタル後ニ於テモ諸般ノ事情ニ鑑ミ支拂計畫ノ變更乃至支拂總額ノ減少カ必要トナルヘキコト豫測ニ難カラサリシヲ以テ必要ニ應シ賠償委員會又ハ同盟及聯合國政府カ(或ル場合ニハ兩者共同シテ)右支拂計畫ノ變

外務省

(赤 標 紙) 4

更又ハ支拂總額ノ減少ヲ爲シ得ルコトヲ明記シ置キタリ
今賠償委員會及同盟及聯合國政府カ平和條約ニ依リ委任セラレタル主要ナル權限ヲ擧クレハ左ノ如シ
(A)賠償委員會ノ權限

- (1)賠償金總額ノ決定(第二三三條第一項)
- (2)支拂計畫ノ決定(第二三三條末項)
- (3)支拂猶豫ノ承認(第二三四條)
- (4)支拂計畫ノ變更(第二三四條)
- (5)賠償金總額ノ減少(第二三四條)

(但シ此ノ場合委員會ニ代表セララル諸國政府ノ特定ノ承認ヲ要ス)

外務省

4.3

4.3

B-0034

0242

(赤
林
紙)
イ

(6) 還付ニ關スル手續ノ決定(第二三八條)
 (7) 賠償問題全部ノ管掌及處理(第二附屬書十二第二項)
 (8) 平和條約賠償額ノ解釋(第二附屬書十二第二項)
 (9) 擔保權解除(第二百四十八條第一項)
 (B) 同盟及聯合國政府ニ委任セラレタル權限
 (1) 賠償金總額減少ノ承認(第二三四條末段)
 (2) 賠償金分配方法ノ決定(第二三七條第一項)
 (3) 賠償額第二附屬書ノ變更(第八編第二附屬書二十二)
 (4) 優先權順位ノ變更(第二五一條第二項)
 第二、倫敦協定及「ドーズ」案
 倫敦協定ハ右諸權限ニ基キ關係國及賠償委員會ニ依リ協定セラレ

4.3

外務省

(赤
林
紙)
イ

タルモノニシテ其ノ要點ハ「ドーズ」案ノ實施ヲ承認シ且右實施ニ必要ナル諸般ノ手續上ノ規定ヲ爲シタルモノナリ今倫敦協定及「ドーズ」案中ヨリ特ニ新大藏大臣協定ト密接ノ關係ヲ有スル部分ヲ摘記スレハ次ノ如シ
 (1) 「ドーズ」年金ノ包含性ニ關スル規定
 「ドーズ」案第一編第十一ニ「ドーズ」年金ハ戰爭ノ結果獨逸カ負擔セル一切ノ債務ニ對スル支拂ヲ包含スルモノナルコトヲ力説ス
 (2) 分配問題ニ關スル規定
 「ドーズ」委員會ハ委任セラレタル權限外ナリトシテ之ニ觸ルルコトヲ避ケタリ而シテ倫敦協定モ本問題ニ觸レス單ニ倫敦會

4.3

外務省

B-0034

0243

議ノ際關係國代表者ニ於テ倫敦會議終了後本問題處理ノ爲會合
スヘキコトニ非公式ニ申合セタルニ過キサリキ

第三、新大蔵大臣協定

右ノ結果獨逸國ノ毎年支拂フヘキ債務ハ「ドーズ」年金ニ之ヲ限
ルコト及右「ドーズ」年金ハ「ヴェルサイユ」條約ノ定ムル賠償
金ノ外戰爭ノ結果獨逸ノ負ヘル一切ノ債務ヲ包含スルコト明ニナ
リタルモ關係國ノ有スル各種債權ノ有スル順位及取分ノ問題ハ未
定ニシテ之ヲ關係國間ニ於テ決定スル必要アリキ大蔵大臣協定ハ
右決定ヲ爲シタルモノナリ

「ヴェルサイユ」條約ニ依リ獲得セル關係國ノ債權ニ對シ「ド
ーズ」年金ヲ充當スルコトニ付テハ實質上モ形式上モ何等問題ナキ

外務省

(赤紙)

ヲ以テ今「ヴェルサイユ」條約ヲ批准セサリシ米國ニ對シ「ド
ーズ」年金ノ一部ヲ充當スルコトカ「ヴェルサイユ」條約ノ變更又
ハ新シキ取極ヲ爲スコトニナルヘキヤニ付研究セムトス

先ツ米國側ノ「ドーズ」年金分配參加請求ノ當否ヲ研究セムニ米
國ノ戰爭當時ノ功績休戰條約ノ規定(米國カ要求スル賠償金ヲ獨
逸國カ支拂フヘキコトヲ規定ス)及米獨平和條約ニ鑑ミルニ米國
カ獨逸國ニ對シ賠償請求權ヲ有スルコトニ付テハ疑ナク同盟國政
府ハ之ヲ承認スルノ外ナキカ如シ「ヴェルサイユ」條約第二百四
十八條ニ獨逸帝國及其ノ各邦ノ一切ノ資源及收入カ「ヴェルサイ
ユ」條約ニ依リ獨逸國ノ負ヘル債務ノ爲ニ擔保ト爲スコトヲ規定
スト雖モ同盟國ハ「ヴェルサイユ」條約ヲ以テ第三國カ同條約締

外務省

B-0034

0244

結前ニ有シタル利益（米國カ休戰條約ニ依リ獲タル賠償請求權）ヲ害スルコト能ハサルヘシ殊ニ米國側ノ請求金額ハ軍人ニ對スル年金等ノ請求權ヲ拋棄シタル爲著ク減少シ居レルヲ以テ之ヲ拒否スルコト能ハサル理由ハ更ニ強クナルヘシ故ニ實際上ノ問題トシテハ之ヲ承認スル外ナシ

米國カ獨逸國ニ對シテ有スル債權ハ米獨條約ノ結果米國ノ得タルモノナリ而シテ同盟國政府モ事實上承認スルノ外ナキモノナリ却說倫敦協定ノ結果「ドーズ」年金分配ニ關シ「ヴェルサイユ」條約ニ基ク債權ニ對スル支拂ト同條約ニ基カスシテ別ノ條約ニ基ク債權（米國側請求權）トノ間ノ分配ヲ如何ニスヘキヤノ問題ニ違着セリ右問題ハ賠償委員會及同盟國政府ニ於テ決定シ得ヘキ事

外務省

項ナリヤ

平和條約ノ規定ニ依レハ賠償委員會ト同盟國政府ト共同スレハ賠償金支拂計畫ノ變更モ賠償金總額ノ減少モ「ヴェルサイユ」條約ニ依リ同盟國ノ得タル擔保權ノ解除モ爲シ得ルナリ而シテ倫敦協定ハ右規定ニ依リ「ドーズ」年金中ノ一部ヲ米國ニ與ヘ其ノ他ノ部分ヲ同盟國ニ與フルコトト爲スヘキコトヲ決定シタルナリ故ニ殘レル問題ハ同盟國政府カ米國ノ爲「ドーズ」年金中ノ一定金額ヲ一定ノ方法ニ依リ支出スルコトカ平和條約ノ實施ト見ルヘキモノナリヤノ點ノミナリ

「ヴェルサイユ」條約第二百五十一條第二項ハ「ヴェルサイユ」條約ニ依リ定メタル債權以外ノ債權ノ爲メニ獨逸國ノ資源ヲ充當

外務省

B-0034

0245

スルコトヲ同盟及聯合國政府カ定メ得ヘキコトヲ規定シ居レリ
其ノ規定次ノ如シ

「食料品及原料品ノ供給ニ對スル支拂其ノ他獨逸國ノ爲スヘキ支
拂ニシテ同盟及聯合國カ獨逸國ヲシテ其ノ賠償ノ債務ヲ履行セシ
ムル爲必要ナリト認メタルモノハ右諸國政府ノ定メタル又ハ定ム
ヘキ範圍及條件ノ下ニ優先ノ順位ヲ有スヘシ」

故ニ同盟及聯合國政府ハ「ヴェルサイユ」條約ノ定ムル債權ニ非
ル米國ノ債權ニ對シテモ右債權カ「獨逸國ノ爲スヘキ支拂ニシテ
同盟及聯合國カ獨逸國ヲシテ其ノ賠償ノ債務ヲ履行セシムル爲必
要ナリト認メタルモノ」ナラムニハ自由ニ右支拂ニ關シ其ノ範圍
及條件ヲ定メ一定ノ順位ノ下ニ支拂ハルヘキコトヲ定メ得ルナリ

外務省

(赤紙)

米國ノ債權カ獨逸國ノ爲スヘキ支拂ナルコトハ疑ナシ故ニ研究ヲ
要スルハ右支拂ハ獨逸國ヲシテ賠償ノ債務ヲ履行セシムル爲必要
ナルモノト認メラルルヤ否ヤノ點ノミナリ然ルニ「ドーズ」案ノ
實施カ獨逸國ヲシテ賠償ノ債務ヲ履行セシムル爲必要ナリトハ
既ニ一般ニ認メラレタル所ナリ而シテ「ドーズ」案ハ其ノ年金中
ニハ米國ニ對スル支拂ヲモ包含スルコトヲ認メ居レリ故ニ此ノ點
ニ付テモ何等障礙ナシ若シ右解釋ヲ採用セストスレハ獨逸國ハ「ド
ーズ」年金以外ニ米ニ對スル支拂ヲ爲スヲ要スルコトトナリ獨逸
國ノ負擔ハ過大トナリ再ヒ「マルク」ノ滲落獨逸國豫算ノ不均衡
等ヲ惹起シ賠償金支拂ヲ不可能ナラシムヘシ故ニ同盟及聯合國政
府カ米國債權ノ爲一定ノ支拂方法ヲ決定スルハ「ヴェルサイユ」

外務省

B-0034

0246

條約ト抵觸スルコトナク單ニ同條約ニ依リ委任セラレタル權限ヲ行使シ賠償問題解決ノ爲ニ必要ナル手續ヲ執リタルニ過キササルナリ

論者或ハ云ハム同盟及聯合國政府カ獨逸國ノ米國ニ對スル支拂ニ關シ承認ヲ與ヘ其ノ支拂方法ヲ決定スルハ可ナリ然レトモ米國ト右支拂方法ニ關シ協定ヲ締結スルハ一ノ新協定ヲ爲スモノニ非スヤト右ニ對シ吾人ハ「ヴェルサイユ」條約カ「右諸國政府ノ定メタル又ハ定ムヘキ範圍及條件ノ下ニ」ト云ヒ右範圍及條件ヲ決定スル方法ニ付テハ何等規定スルコトナキコトニ注意ヲ喚起セムトス

吾人ノ見解ヲ以テスレハ右範圍及條件決定ノ爲ニ同盟及聯合國政

外務省

(赤 標 紙) 4

府カ關係當事國ト協議スル必要アルコトハ當然ノ理ナルヲ以テ平和條約ノ前記ノ範圍及條件ヲ決定スル方法ニ付テ何等規定スル所ナキハ即チ同盟及聯合國政府カ關係當事國ト協議シ取極ヲ爲スコトアルヘキコトヲモ豫想シ其ノ權限ヲモ委任シタルモノナリ故ニ今米國ニ對スル支拂ニ關シ其ノ範圍及條件ヲ決定スルコトアルモ右取極ハ依然對獨平和條約カ同盟及聯合國政府ニ與ヘタル權限ノ行使ニ過キササルナリ

尙最後ニ新大藏大臣協定ノ規定ニ關シ左ノ諸點ニ注意ヲ喚起セムトス

(1) 第三條(A) 1ニ規定スル米國占領軍費用ハ獨逸國ノ負擔セル賠償金總額千三百二十億金貨「マルク」以外ニ支拂ハルヘキモノナ

外務省

B-0034

ルヲ以テ理論上ハ帝國ノ取得スヘキ賠償金總額ニ何等影響ヲ及
ホササルモノナリ

(2) 第三條(A) 2ニ規定スル米國ニ對スル賠償金分配額カ獨逸國ノ賠
償總額千三百二十億金貨「マルク」ノ一部タルヘキヤ否ヤニ付
テハ明瞭ナル規定ナシ然レトモ賠償委員會ハ獨逸國ノ支拂フヘ
キ賠償金總額ニ關シ「獨逸國ハ同條約第二百三十二條第二項及
第八編第一附屬書ノ規定ニ依リ賠償ヲ爲スヘキ損害總額ヲ千三
百二十億金貨「マルク」ト決定ス」ト決議シ居レルヲ以テ吾人
ノ見解ニ依レハ賠償委員會カ明白ニ米國ニ對スル支拂金額タケ
獨逸國ノ負擔スル賠償金總額ヲ減少スルコトヲ決議セサル限り
「ヴェルサイユ」條約第二百三十二條ニ依リ規定セラレタル賠

(赤・林・紙)イ

外務省

償金總額ハ千三百二十億金貨「マルク」ナリ

(3) 假ニ米國ニ對スル支拂ヲ千三百二十億金貨「マルク」ノ一部ト
爲スモ「ヴェルサイユ」條約ハ賠償委員會ニ同盟及聯合國政府
ノ承認ノ下ニ賠償債務減少ヲ爲シ得ル權限ヲ與ヘタルヲ以テ(第
二三四條)條約ノ違反ニ非ス右權限ヲ行使シタルニ過キササルナ
リ

(赤・林・紙)イ

(4) 米國ノ受領スル分配額カ賠償金總額ノ一部ヲ爲スモノトスルモ
帝國ハ平和條約第一附屬書ノ規定ニ依ル其ノ損害ハ約六億八千
五百萬金貨「マルク」(賠償委員會評價部査定額)ニシテ同盟
及聯合國政府ノ損害總額二千二百四十億金貨「マルク」ノ約〇、
三%ニ相當スルニ過キササルニモ拘ラス〇、七五%ノ分配率ヲ與

4.3

外務省

B-0034

0248

ヘラレタル結果九億九千萬金貨「マルク」(千三百二十億金貨「マルク」ノ全部ヲ獨逸カ支拂フモノト假定シテ計算ス正確ニ云ヘハ之ヨリモ小額ノ減少アルヘキ筈ナルモ獨逸國以外ノ諸國ノ支拂額未定ナルヲ以テ計算不可能ナリ)ヲ受クルコトナリ甚タ有利ノ權利ヲ獲得シ居リタルヲ以テ尙帝國ノ理論上受領スヘキ金額ハ損管額ヲ遙ニ超過スル計算ト爲ルナリ

(5) 新大藏大臣協定ハ山東鐵道嶺山ノ價格借記問題ニ關シ帝國ニ取リ有利ナル決定ヲ與ヘタルヲ以テ右協定ハ速ニ確定的ニ效力ヲ發生セシムルコト有利ナリキ

(6) 會議ノ大勢ハ即時效力ヲ發生セシムルコトニ一致シ居レルヲ以テ帝國政府代表者ハ本國政府ニ照會スルノ邊ヲ有セサリキ

外務省

B-0034

0250

樞密院ニ御諮詢ナカリシ國際約束ニシテ法律ニ根據
ヲ有スルモノノ先例
(昭和二年十月作成)

(一) 船舶滿載吃水線法

第十條 本法ハ本法施行地域内ノ港ニ出入スル日本船舶ニ非ル船
舶ニ之ヲ準用ス

第十一條 主務大臣ニ於テ前條ノ船舶ノ所屬地ノ滿載吃水線ニ關
スル法令ヲ相當ト認メタルトキハ之ニ依リテ受ケタル船舶滿載
吃水線ノ標示ハ之ヲ本法ニ依リタルモノト看做ス
前項ノ規定ハ本法ニ依リ發給シタル船舶滿載吃水線證書及之ニ
相當スル滿載吃水線ノ標示效力ヲ認メサル外國ニ屬スル船舶ニ
ハ之ヲ適用セス

外務省

船舶滿載吃水線證書互認取極

日 蘭	大、十一日 獨	大、十一
日 英	大、十一日 佛	大、十一
日 白	大、十一日 丁	大、十五
日英領海峽殖民地	大、十一	

船舶検査法

第十七條 左ニ掲クル船舶ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ
施行ス

- 一 日本臣民
ニ使用スル外國船舶
入レ日本各港ノ間又ハ日本ト外國トノ間
- 二 日本ノ沿岸又ハ湖川港内ノミヲ航行スル外國船舶

外務省

B-0034

三 日本各港ニ於テ旅客又ハ移住民ヲ搭載スル外國船舶
外國船舶検査規則

第六條 外國船舶ノ積量ハ其ノ所屬國政府ノ交付シタル船舶國籍
證書又ハ船舶検査證書ニ記載シタル積量ニ依ル若船舶國籍證書
又ハ船舶検査證書ヲ受有セサルトキハ船舶積量測定規則ニ依リ
之ヲ測定ス

船舶積量互認ニ關スル取扱

日 獨	明、三三日	丁	大、十一
日 露	明、四三日	英	大、十二
日 蘭	明、四五		

(三) 領事官職務規則

(赤 林 紙) イ

外 務 省

4.3

第二十條 領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ニ關スル規定ハ外
務大臣之ヲ定ム

領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ニ關スル規程

第二條 領事官ハ左ニ掲クル事項ニ付左記ノ手数料ヲ徵收ス

十五、原產地證明 二圓乃至十二圓

領事官ハ前項第二號乃至第二十七號ノ手数料ニ關シテハ豫メ其
ノ範圍内ニ於テ手数料額ヲ定メ外務大臣ノ認可ヲ經ルコトヲ要
ス

領事官ハ駐在地ノ狀況ニ依リ外務大臣ノ認可ヲ經テ特定ノ事項
ニ關シ本條ノ手数料ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得
原產地證明手数料相互免除取扱

(赤 林 紙) イ

外 務 省

4.3

B-0034

0252

日 露 明、四三
 日 英 大、一
 日 佛 大、二

(四) 外國船舶ノ所得税免除ニ關スル法律

日本ニ住所ヲ有セサル外國人又ハ外國法人ニハ外國ノ船籍ヲ有スル船舶ノ所得ニ付所得税ヲ免除ス但シ其ノ船籍國カ日本船舶ノ所得ニ付同様ノ免除ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
 海運業ヨリ生スル所得ニ對スル所得税ニ重課税免除ノ了解

日 米 大、十五
 日 丁 昭、二

(五) 外國人入國ニ關スル件(内務省令)

外務省

(赤 枠 紙)

4.3

第二條 帝國臣民ノ入國ニ關シ旅券又ハ國籍證明書ノ提示ヲ必要トセサル國ノ臣民又ハ人民ニ付テハ特ニ前條第一項第一號ノ規定ヲ其ノ旅券又ハ國籍證明書ニ當該國官憲ノ査證ヲ必要トセサル國ノ臣民又ハ人民ニ付テハ同條第二項中査證ニ關スル規定ヲ適用セサルコトヲ得

旅券ノ査證相互廢止ノ協定

香 港 獨 逸
 佛 蘭 西 (「アルゼリー」以外ノ殖民地ヲ除ク) 瑞 典
 伊 太 利 (殖民地ヲ除ク) 丁 抹
 白 耳 義 芬 蘭
 瑞 西 諾 威

(赤 枠 紙)

外務省

4.3

B-0034

0253

「リヒテンシュタイン」

和 蘭

西班牙（「モロッコ」ヲ一時除ク）

（赤
林
紙）

外
務
省

43

B-0034

0255

昭和四年五月十八日

船舶積量測定證書互認取極ニ就テ

船舶積量測定法、船舶積量測定規程、船舶積量改測規則及船舶積量測定心得ヲ見ルニ外國船舶ノ積量測定證書ニ關シ船舶滿載吃水線法（第十一條）ノ如ク相互條件ノ下ニ其ノ效力ヲ認ムル旨ヲ規定セズ從テ本件互認取極ニ對シ兩國政府ガ法律ニ依リ委任セラレタル範圍内ニ於テ同一行政行為ヲ爲スコトヲ双方ヨリ聲明スルモノナリトノ解釋ヲ下スコトヲ得ズ

本件交換公文ガ船舶積量測定ニ關スル兩國ノ法規ヲ實質上一致スルモノナリト云フハ事實ノ認定ヲ表示セルニ過ギサルモ右事實アルガ故ニ兩國ノ船舶積量測定證書ヲ相互ニ承認シテ他方國ノ船舶

外務省

(赤印紙)

ノ噸數ヲ自國船舶ノ噸數ト同一ト認ムヘント云フハ兩國間ニ一ノ國際約束ヲ形成スルモノナリ

尤モ外國船舶検査規則第六條ニ「外國船舶ノ積量ハ其ノ所屬國政府ノ交付シタル船舶國籍證書又ハ船舶検査證書ニ記載シタル積量ニ依ル」ト規定セルモ右ハ證書記載ノ外國船舶ノ積量ヲ其ノ僅一切ノ關係ニ於テ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做スベキコトヲ意味スルモノニ非ズシテ船舶検査ノ爲ニハ外國船舶ノ積量ハ證書ニ記載シタル積量ヲ用フルコトヲ規定セルモノナリ

本件取極ハ國際約束ナルガ故ニ積量測定互認取極ニ關シテハ樞密院ニ諮詢セサルコト從來ノ慣例ナルコト（大正十四年十二月高裁案ハ從來樞密院ニ對シ手續ヲ執ラサリシ理由ヲ示ササルモ恐ラ

外務省

B-0034

0256

「重要ナラサル技術的取極」ナリト云フニアラン）及船舶滿載吃
水線法（大正十年制定）第十一條ノ趣旨ハ本法ト同様技術的性質
ヲ有スル船舶積量測定法（大正三年制定）ニ付テモ認メテテ可
ナルベキコト以外ニ之ヲ樞密院ニ附議セズレテ可ナリトノ積極的
理由ヲ發見スルヲ得ズ

(赤
林
紙)
イ

外
務
省

43

B-0034

0250

(赤 標 紙) イ

我國ニ於ケル條約ノ種類及其ノ締結ノ形式ニ關スル件

(大正十三年一月作成)

第一節・條約締結ニ關スル帝國ノ法規

一 帝國憲法第十三條

二 公式令

三 樞密院官制及事務規程

四 特許法著作權法・郵便法等

第二節・現行條約ノ形式

一 *Treaty, Convention* ノ名稱ヲ有スルモノ

二 *Agreement, Arrangement* 又ハ *Record* ノ名稱ヲ有スルモノ

三 *Declaration* ノ名稱ヲ有スルモノ

四 *Protocol* ノ名稱ヲ有スルモノ

省

(赤 標 紙) イ

一 *Article separé* 又ハ *Article additional* ノ名稱ヲ有スル

二 *Date* ノ名稱ヲ有スルモノ

三 *Process verbal* ノ名稱ヲ有スルモノ

四 公文交換ニ關ルモノ *Notes echangées*

五 *Notes annexées*

一 條約ノ名稱ヲ有スルモノ

二 協約ノ名稱ヲ有スルモノ

第三節・結句

第四節・餘論

一 樞密院諮詢ノ時期

二 全權委任狀ト政府ノ委任ヲ受ケタルモノ

外務省

B-0034

0258

- 一 萬國條約形式
- 二 加入ニ關スル形式
- 三 公文式
- 四 船舶積量互認ノ形式

(赤 印 紙)

外 務 省

43

(赤 印 紙)

第一節 條約締結ニ關スル帝國法制

條約締結ニ關スル帝國ノ法規ハ左ノ如シ

一 帝國憲法第十三條

天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

二 公式令

第八條 國際條約ヲ發表スルトキハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御

璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ主任ノ國務大臣ト俱ニ之

ニ副署ス

第十三條 國書其他ノ外交上ノ親署、條約批准書、全權委任狀、

、、、、ニハ親署ノ後國璽ヲ鈐シ主任ノ國務大臣之ニ副署ス

43

外 務 省

B-0034

0259

外務大臣ニ授クル全權委任狀ニハ内閣總理大臣之ニ副署ス
ニ 樞密院官制及事務^現理程

第一條 樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢スル所トス

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付諮詢ヲ待テ會議ヲ開キ意見ヲ上
奏ス

一乃至三略

四 列國交渉ノ條約及約束

五 略

六 前諸項ニ掲クルモノノ外臨時ニ諮詢セラレタル事項

四 尙特許法、著作權法、郵便法等ニハ「、、、ニ關シ條約又ハ
之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ云々」ノ規定存ス

帝國憲法上條約締結權ノ範圍ニ付テハ何等制限ナキモ如何ナル種類
ノ國際約束カ樞密院ノ諮詢ヲ經ルコトヲ要スルヤ又公式令第八條ニ
依リ公布スルコトヲ要スルヤ實質的ニモ形式的ニモ之ヲ定ムルノ法
規ナシ唯樞密院側ニ於テハ其ノ職掌ノ一タル列國交渉ノ條約及約束
ヲ成ルヘク廣義ニ解シ一切ノ條約及約定ニ及フモノトシ其ノ權限ヲ
擴張セントスルノ傾向アルモ同院カ重要ナル國務ヲ諮詢セラルル所
ナルニ鑑ミルトキハ茲ニ自ラ一定ノ限界アルヘク依テ一切ノ條約及
約定カ公式令第八條ニ依リ公布スルコトヲ要スルモノニ非スト解セ
ラル又實際問題トシテ形式ノ如何ヲ問ハス條約及約束ハ大體署名前
又ハ批准前樞密院ニ諮詢セラレ居ルモ其ノ諮詢セラレタル條約又ハ
約束カ總テ公式令第八條ニ依リ公布セラレ居ルニハアラス同條ニ依

リ公布セラルルモノハ一定ノ形式ヲ有スル條約及約束ナルカ如シ
今現行條約ハ如何ナル形式ヲ有スルヤ如何ナル形式ヲ有スルモノカ
「條約」トシテ公布セラレ居ルヤ以下ニ分類記述スヘシ條約及約束
ノ内容ト形式トノ關聯ニ關シテハ右ニ依リ自ラ一定ノ標準アルコト
ヲ了知シ得ヘシ

(赤林氏)

外務省

4.3

第二節 現行條約ノ形式

*Treaty - Convention*ノ名稱ヲ有スルモノ

イ、通商條約

- 日米、日英、日佛、日伊、日墨、日諸、日蘭、日秘、日露、
- 日亞、日勃、日伯、日智、日支、日哥、日丁、日西、日希、
- 日暹、日瑞典、日瑞西、日パ、日エ

ロ、講和條約

日清、日露

ハ、工業所有權及著作權ノ保護ニ關スル條約

日米、日佛、日露、日瑞典

(注意日米著作權保護ニ關スル *Convention*ハ協約トセリ)

(赤林氏)

外務省

4.3

B-0034

026

ニ、犯罪人引渡條約

日米、日露

ホ、合併條約

日韓

ヘ、領事職務條約

日蘭

ト、仲裁裁判條約

日米

右諸條約ハ皆其ノ前文ニ於テ「日本國皇帝陛下及亞米利加合衆國大統領ハ、、、認メ之カ爲條約ヲ締結スルコトニ決シ日本皇帝陛下ハ、、、ヲ亞米利加合衆國大統領ハ、、、ヲ各其ノ全權

外務省

(赤林紙)

委員ニ任命セリ右各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ」末文ニ於テ「右證據トシテ各全權委員之ニ署名調印ス」ナル形式ヲ有シ且批准ヲ要スル旨ヲ規定ス

又之等條約ハ現行公式令執行後發表セルモノハ同令ニ依リ「條約」トシテ公布セラル

Conventionノ名稱ヲ有スルニ拘ラス右ノ形式ニ依ラサルモノニ日露醫術自由開業ニ關スル協定(裁可及諮詢ナシ)、日露協約(大正ニ一之ハ調印前諮詢セラル)、日露鐵道接續業務假條約、日露鐵道及汽船貨物運輸ニ關スル協約アリ
右等 Conventionニハ批准ニ關スル規定ナク政府ノ正當ナル委任ヲ

外務省

B-0034

0262

受ケタル者之ニ依リ調印セリ
 又帝國ニ於テハ官報ニテ發表シタルモ「條約」トシテ公布シ居ラ
 ス Convention ヲ協定又ハ協約ト譯シタルハ「條約」トシテ公布
 スルコトヲ避ケントスル用意ニ出テタルモノナルカ如シ
 ≡ Agreement, Arrangement, Accord ノ名稱ヲ有スルモノ
 イ、難破船費用償約定
 日米、日支
 ロ、日米仲裁裁判條約ノ有効期間延長ニ關スル協約
 ハ、支那國輸入稅率改訂ニ關スル協定
 ニ、黃浦江水路改良ニ關スル協定
 ホ、大連海關設置及内水汽船航行ニ關スル協定

外務省

ヘ、鮮滿國境通過鐵道貨物關稅輕減取扱
 ト、青島支那稅關再開ニ關スル取扱
 チ、日佛協約
 リ、日英同盟協約
 ス、會社互認ニ關スル協約
 日露
 右諸 Arrangement 中日米難破船費用償還約定ハ名ハ協定ナルモ
 形式ハ前記條約ト同一ナリ帝國ニ於ケル公布モ亦同ジ
 日米仲裁裁判條約ノ有効期間延長ニ關スル協約ハ政府ノ委任
 ヲ受ケタル者之ニ調印シ批准書交換ニ關スル規定アリ帝國ニ
 於テハ「條約」トシテ公布シ居レリ

外務省

B-0034

0263

日支難破船費用償還約定及日露會社互認協約ハ政府間ノ協定ニシテ批准ニ關スル規定ナキモ條約ト同様ノ形式ニ於テ公布セラル

其ノ多クハ政府ノ委任ヲ受ケタル者之ニ記名調印スルノミニテ批准書ヲ交換スルノ規定ナシ

附及(ハ)ノ如キハ日本公使及支那總稅務司ノ署名スルノミ同取極中ニハ締結者又ハ署名者ニ關シ何等規定ナシ

之等約定ハ皆帝國ニ於テハ官報ニ發表スルモ「條約」トシテ公布セス形式ハ大體左ノ通りナリ

第一例

前文「日本國皇帝陛下ノ政府及佛蘭西共和國政府ハ、、、

外務省

(赤 枠 紙) 4

希望シ之カ爲左ノ協約ヲ締結スルコトニ決定セリ」

末文「右證據トシテ下名、、、及、、、ハ各其ノ政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ之ニ記名調印スルモノナリ」

第二例

前文「日本國政府竝ニ清國政府ハ、、、ヲ約定スルコト

左ノ如シ

末文署名ニ關スル規定ナシ

Declaratorノ名稱ヲ有スルモノ

イ、米國行及加奈陀行日本勞働者ノ制定^限及取締ニ關スル宣言

ロ、韓國併合ニ關スル宣言

ハ、臺灣海峡自由航行等ニ關スル宣言

外務省

B-0034

0264

ニ、通商條約適用ニ關スル日西宣言
 ホ、印度支那ニ關スル日佛宣言
 ヘ、摩洛哥ニ於ケル佛領地帯ニ關スル日佛宣言
 ト、日露漁業條約ニ關スル日露宣言
 チ、單獨不講和ニ關スル英佛露伊日ノ宣言
 リ、日露犯罪人引渡條約附屬宣言書
 イ、ロ、ハ、ハ一方的意志表示タルニ止マリニ、ホ、ヘ、ト、
 チ、リ、ハ政府間ノ合意ヲ定メタルモノナリハ、ホ、ヘ、チ、
 ハ獨立ノモノニシタイ、ニ、ト、リ、ハ附屬的追加的ノモノナ
 リ
 合意ヲ定メタル *Declaration* ノ形式ハ大體第二ニ於ケルト同様

(赤林紙)イ

外務省

ニシテ政府ノ委任ヲ受ケタル者之ニ署名ス
 印度、支那ニ關スル日佛宣言ニハ「政府ノ正當ノ委任ヲ受ケ」
 ナル文言ナシ

(赤林紙)イ

批准文書ナシ「條約」トシテ公布セルモノナシ
 四 *Protocol* ノ名稱ヲ有スルモノ
 イ、通商條約ニ附屬セル議定書
 日米、日支、日西、日秘、日露、日佛、日暹
 ロ、日露漁業條約ニ附屬セル議定書
 ハ、北清事變ニ關スル最終議定書
 ニ、滿洲撤兵手續及鐵道線路引渡順序議定書
 ホ、日露鐵道接續假條約附屬議定書

外務省

B-0034

0265

右ノ内通商條約及漁業條約等ノ附屬議定書ハ締約國又ハ締約國政府ヲ主體トシ當該條約ヲ署名セル全權委員之ニ署名スルコトヲ通例トシ又(イ)及(ロ)ノ場合ニ於テハ多クハ當該條約ノ批准ニ依リ批准セラレタルモノト看做サルヘシト規定セリ但シ帝國ニ於ケル其ノ公示ノ形式ハ區々ニシテ當該條約ト共ニ公布セラルル事アリ(日米、日佛)又當該條約トハ別箇ニ官報ニ掲載セラルル事アリ(日露)

形式ハ大體左ノ通り

第一例

「日本國政府及亞米利加合衆國政府ハ、、、ニ關シ各其ノ全權委員ニ由リ左ノ約定ニ同意セリ」

外務省

4.3

(赤紙)

「右證據トシテ各全權委員ハ本議定書二通ニ署名關印ス」
第二例

「兩締約國ハ、、、ニ依ルヘキコトヲ約定ス」

「右證據トシテ兩國全權委員本議定書ニ署名關印ス」

Article separate 又ハ *Article additional* ノ名稱ヲ有スルモノ

イ、日露鐵道接續假條約追加條款

ロ、日露通商條約附屬別約

ハ、日露講話條約追加約款

日露通商條約附屬別約ニハ又批准文言アリタルモ帝國ニ於テハ通商條約ト一括批准ノ上「條約」トシテ公布セリ
日露講話條約追加約款ハ講和條約ノ批准ト共ニ批准セラレタ

4.3

外務省

B-0034

0266

ルモノト看做サルヘシト規定セル處帝國ニ於テハ右條約ト一
括公布セラレタリ

署名等ノ形式ハ *Protocol* ニ於ケルト同様ナリ

キ *Acte* ノ名稱ヲ有スルモノ

樺太島日露境界劃定書

キ *Procès verbal* ノ名稱ヲ有スルモノ

清國ニ於ケル工業所有權ノ相互保護ニ關スル條約ノ批准交換覺書
正當ニ政府ノ委任ヲ受ケタルモノ記名調印セリ

ハ公文交換ニ依ルモノ *Notes échangées*

太平洋方面ニ關スル日米交換公文、支那ニ關スル日米交換公文ノ
如キ通商暫定取極ニ關スル日白交換公文、日佛交換公文、日伊交

換公文ノ如キ原產地證明手數料相互免除ニ關スル日露、日佛ノ交
換公文ノ如キ船舶積量互認ニ關スル日露、日露交換公文ノ如キ條
約ノ解釋ニ關スル日米交換公文ノ如キ條約加入ニ關スル日佛交換
日加交換公文ノ如キ又聯合巴里經濟會議決議承認ニ關スル日佛公
表書ノ如キ又鐵道ニ關スル日支交換公文ノ如キ重要ナル事項ニ關
シ外交代表者及外務大臣間ノ公文ノ交換ヲ以テ種々取極ヲナスコ
トアリ右ニハ何等特殊ノ形式アルニ非ス通常ノ書翰体ニ依ル帝國
ニ於テハ重要ナル事項ニ關スルモノト雖「條約」トシテ公布セス
告示又ハ官廳事項トシテ官報ニ公示スルニ止ム

九 *Notes annexées*

樺太千島交換條約附錄

B-0034

0267

第三節 結論

以上ノ實例ヲ通^覽スルニ *Treaty, Conventions* 條約ノ名稱ヲ有スルモノハ原則トシテ當事國元首ハ全權委員ヲ委任シ彼等ヲシテ決議決定記名調印セシメ批准ニ關スル規定ヲ設ク

而シテ帝國ニ於テハ之ヲ公式令ノ「條約」トシテ公布シ居レリ（公式令實施前ニ於テハ明治十八年公文式ニハ條約公布ノ規定ナカリシモ「勅令」ヲ以テ公布セリ）

Agreement 名稱ヲ有スルモ形式ニ於テ右等條約ト同様ナリシトキハヤハリ「條約」トシテ公布ス

其他ノ名稱ヲ有スル國際取極ハ公文交換ニ依ル場合及條約ニ附屬スルモノヲ除キ當事國政府間ノ取極トシ其ノ委任ヲ與ヘタルモノヲシ

(亦 條 約)

外 務 省

(亦 條 約)

テ記名調印セシメ帝國ニ於テハ「條約」トシテ公布セス告示ヲ以テ又ハ官廳事項欄トシテ官報ニ公示スルニ止ム但シ公文交換ニ依ル場合等モ同シク告示又ハ官廳事項欄ニテ公布セリ尙會社互認ニ關スル日露協約ヲ條約トシテ公布セルハ例外ト認ムヘクコノ外右ノ原則ニ對シテ重大ナル例外ヲナスモノハ帝國遞信省カ外國郵政廳ト締結スル郵便業務ニ關スル約定ナリ之等約定ハ各郵政廳長官ノ署名セル郵政廳間ノ約定ニシテ其ノ形式ハ *Convention, Treaty* ノ形式ヲ有セス單ニタルニ過キス然モ何等批准ニ關スル文言ナキニ拘ラス帝國ニ於テハ從來總理大臣及遞信大臣ノ名ニ於テ「條約」トシテ公布シ居レリ

外 務 省

B-0034

0269

第四節 余論

一 樞密院諮詢ノ時期

條約及約束ハ一切樞密院ニ諮詢セラルルノ慣例トハナリ居ラサル
モ其ノ諮詢ヲ經ル場合ニハ批准ヲ要スルモノニ付テハ調印後、批
准ニ關シ規定ナキモノニ付テハ調印前、公文交換ニ依ルモノハ公
文交換前ニ手續ヲ採ルコトトナリ居レリ
ニ全權委員狀ト政府ノ委任ヲ受ケタルモノ前者ニ付テハ一定ノ書式
アルモ後者ニ付テハ有形的文書ナキカ如クコノ場合ニハ多ク調印
ニ依リ效力ヲ生スルモノナレハ閣議ニ於テ調印ニ關スル權限ヲ附
與シ其ノ旨訓令スルカ如シ重要ナルモノニ至リテハ樞密院ノ諮詢
ヲ經ルコトヲ要スルハ勿論ナリ

(本 節 終)

外 務 省

二 萬國條約形式

現行萬國條約ハ多クハ *Convention* ノ名稱ヲ有シ元首ノ全權委員之
ニ署名調印シ批准ヲ要スル次第ナルトコロ其ノ他 *Declaration*
Arrangement, *Protocol additional* 等ノ名稱ヲ有スルモノアルモ
其ノ署名批准ノ義ハ前者ト同一ナリ唯注意スヘキハ萬國郵便條約
ニ於テハ政府ノ全權委員約定シ署名調印セルコト之ナリ
四 加入ニ關スル形式

(本 節 終)

公式令第八條カ他國間ニ存在スル條約ニ加入スル場合ヲモ豫想セ
ルヤ疑問ナルモ同令執行後帝國カ加入セルハ大正九年九月三十日
「ベルヌ」調印ノ工業所有權ニ關スル取極ニ同年十一月十七日附
ヲ以テ加入セルヲ嚆矢ト爲ストコロ批准條項ヲ含ム國際條約ニ加

外 務 省

入ノ場合ハ加入ハ關印ト批准ヲモ兼ホタルモノナレハ批准上奏ト
同様ノ手續ヲ採ルコト必要ナルヘシ

公文式

現今公式令ハ明治四十年二月一日ヨリ實施セラレ其ノ後ハ「條約
第何號トシテ公布セラレ居ルモ其ノ前ハ勅令トシテ公布セラレ
第二節ニ於ケル説明ノ明瞭ナラサルトコロアルハ右ノ理由ニ基ク
尤モ第三節ニ於テハ主トシテ公式令實施後ノ條約ニ付論述セリ
六船舶積量互認ニ關シ日英、日丁、日蘭、日露、日瑞典等ノ間ニ有
スル取極ハ公文交換ヲ以テ行ハルル處帝國ニ於テハ右取極ヲ公示
シ且遞信省令ヲ以テ帝國政府ト某々國政府ト取極成立シタルニ依
リ對手國船舶積量證書ニ記載スル登簿噸數ハ日本船舶ノ登簿噸數

外務省

ト同一ナリト看做ス旨ヲ公表スル場合アリ（日丁、日蘭）而シテ
又單ニ右様ノ遞信省令ヲ公布スルノミニ止マル場合アリ（日英、
日瑞典）

（亦 條 紙）

外務省

B-0034